慧友僧護について
―高山寺所蔵典籍文書に基づく年譜資料―

小　宮　俊　海

1　慧友僧護について

洛西の古刹、栂尾高山寺は、鎌倉前期の華厳真言兼学の学僧である栂尾上人明恵房高弁（1173～1232）が開創したことで知られる寺院である。現在、その経蔵に所蔵される膨大な典籍文書については、既に多くの研究が進められている(1)。

しかし、高山寺所蔵典籍文書において智積院僧がその書写・修補・保存に重要な役割を果したことはあまり知られていない(2)。特に智積院第28世謙順能化（1740～1812）（以下、謙順）における高山寺での活動をあげることができるが、本稿では、その資である慧友僧護（1775～1853）（以下、慧友）による高山寺での活動の全体像を把握する目的として年譜を作成し、その生涯を明らかにする手懸かりとしたい。

謙順については、本朝に伝来する諸宗所依の仏典論疏を広く目録編纂し、『諸宗章疏録』２巻(3)を刊行した人物として著名である。そして、晩年は智積院能化の職を辞した後、高山寺に隠棲しており、現在も高山寺聖教には謙順の奥書を持つものが多く残されている(4)。

そして、慧友もまた荒廃した高山寺経蔵の再編に尽力した人物として近世高山寺において重要視されている(5)。慧友は栂尾高山寺の学僧で、字は恵猷または慧友といい、僧護と号した。伊賀国上野に生れ、はじめ智積院において謙順の門弟となり、その後、近世真言律の復興に尽力した河内高貴寺の慈雲尊者飲光（1718～1804）（以下、慈雲）の弟子となった。しかし、慧友は晩年の慈雲のもとを１年たらずで「後故ありて捨

戒し、一派を離れ[6]」て高山寺へ隠棲をする。その事由については、今後の課題であるが、その後、謙順も文化７年（1810）３月18日高山寺へ慧友より一足遅れて隠棲したものと考えられる[7]。

慧友は、江戸時代末期の高山寺で当時の困難な状況にあっても精力的に聖教の修理などに尽力した人物として知られており、高山寺現存の様々な記録から、十無尽院の第23世と三尊院の第19世となり、これら歴史ある２つの塔頭を兼帯したことがわかっている[8]。十無尽院は明恵上人を第１世として喜海―弁清―経弁―高経とつづき、密雅―慧友―定淵と続く最も伝統ある塔頭である。同じく近世高山寺経蔵の整理を推し進めた立役者として仁和寺覚深法親王（1588～1648）ならびに仁和寺心蓮院顕証（1567～1678）の活動をあげることができるが[9]、慧友もほとんどの経函の聖教に包紙や挿入紙の識語が認められ、鎌倉期の古い資料を整理するなど、現在の高山寺経蔵の保存に果たした役割は多大である。高山寺所蔵典籍文書のほとんどに目を通せる立場であったことは、明恵以来の十無尽院代々に列座していることからも理解できる。

２　近世後期の高山寺と智積院僧

高山寺に隠棲した謙順ならびに慧友の関係資料が高山寺所蔵典籍文書から見出せるが、それらの聖教を再び智積院僧が書写する活動を智積院聖教から見出すことができる。その中心となる人物が智積院第39世隆栄能化（1809～1867）（以下、隆栄）である。隆栄は、能化職に就く以前より精力的に謙順本の書写を行う目的で慧友より高山寺聖教を借り受けている。謙順亡き後、高山寺蔵の謙順本の管理権は慧友にあったものと思われ、慧友は智積院と高山寺を繋ぐ重要な役割を担っている。智積院における高山寺聖教の書写の多くは隆栄によってなされ、その目的は謙順相伝の法脈を智積院に再興する目的があったものと考えられる。

智積院聖教と高山寺の関係をみると、慧友が高山寺に隠棲したことを契機に、後に謙順が資を頼り智積院より隠棲し、そして、隆栄の活動によりその法脈が再び智積院へもたらされるわけである。現在も高山寺経

蔵には、慧友はもちろんのこと謙順を中心とした智積院関係聖教が所蔵されており、慧友と智積院僧の法脈が高山寺に受け継がれている状況を窺い知ることができ、近世における智積院と高山寺との相互の「法脈の往還」という関係をみることができる。

さらに隆栄から時代が下り、明治期に入ってからもその関係は継続されていることがわかる。その活動の中心として、智積院第43世金剛宥性能化（1821～1895）（以下、宥性）をあげることができる[10]。謙順が明和４年（1767）に仁和寺真乗院宥証（1740存～1884存）[11]から伝受した聖教は、さらに謙順―慧友―隆栄―宥性へと次第している。

また、明治期の高山寺の経蔵をはじめとした什物の目録が近年、再発見され、近代の高山寺の状況を示す重要な資料とされるが[12]、この資料の奥書によれば、宥性が智積院能化職に就く直前、高山寺は華厳宗大本山とした所属でありながらも、智積院の所轄下にあったことがわかる。

さらに、高山寺へ謙順によってもたらされた智積院聖教には、第13世快存能化（1647～1724）（以下、快存）関連の資料や、智積院の新義真言僧関連の肖像などの絵画資料も含まれており、現在も高山寺経蔵に所蔵される典籍として重要な位置を占めている。高山寺経蔵には、謙順、慧友の他にも、智積院聖教と関連の深い快存、隆栄、宥性といった智積院代々を中心とした聖教類を見出すことができるのである。

３　附表　慧友僧護　年譜

智積院聖教と高山寺聖教との相互流入については、慧友がとりわけ鍵的な役割を大きく果たしたことがわかる。そこで、慧友の事績を解明するために、高山寺典籍文書綜合調査団編『高山寺経蔵典籍文書目録』第１～４・完結編に掲載される奥書・識語等の情報をもとに年譜を整理した。これにより慧友が高山寺において書写・手沢・校合・修補した聖教の全貌について、現存資料から解明できる範囲を明らかにすることができ、慧友の事績の詳細について基礎的資料となるのである。この年譜に基づいた編年史的研究についての序説と代えたい。

【凡例】

1　本年譜は、高山寺僧の慧友僧護に関する事績について年月日順に記載するものである。

2　西暦、和暦、月日、年齢、記事、典籍名、成立、典拠、備考、寺院、自称・呼称、分類の順に記載した。

3　表記は全て現行通用の字体に統一し、悉曇文字は別の書体を用いたものもある。

4　表記中の記号は以下を示す。
「／」は改行、「〈　〉」は割注、「□」は判読不明、「「　」」は記事が二つ以上の場合にそれぞれの切れ目を示し、「(　)」は朱書・花押等の表記備考、または省略等の筆者補足注記を示す。

5　年齢は、数え歳を用いた。

6　記事は、高山寺典籍文書綜合調査団編『高山寺経蔵典籍文書目録』第１～４・完結編、東京大学出版会・汲古書院、1973年～2007年（以下、「高」）に記載される奥書・識語をもとに抄書したものである。

7　高山寺での活動以外に関しては、密教辞典編纂会編2002年第９刷『密教大辞典』縮刷版、法蔵館「僧護」項（以下、『密教大辞典』）、長谷宝秀編1926年「正法律中四衆伝」巻上『慈雲尊者全集』首巻、高貴寺（以下、長谷宝秀［1926］）、築島裕1987年「明恵上人と慧友上人」『明恵讃仰』18号（以下、築島裕［1987］）により記載した。

8　典籍名は、「高」における典籍名を示す。また成立は、その典籍の成立年代を示し、合わせて可能な限り書写者を示した。

9　典拠は、「高」における所在を示した。現在、高山寺経蔵所蔵の典籍文書に関する書誌情報は、それぞれ部・函番号・文書番号・枝番号にて一括して通し番号が付され、「高」１～４・完結編としてそれぞれ目録に収載されており、それらを以下のように略記した。
例：『高山寺経蔵典籍文書目録』第３所収・高山寺聖教類第４部・函番号110函・文書番号21・枝番号〔３〕は、「「高」３-聖４-110函-21［３］」と略記。

10　備考は、記事の記された典籍の位置、またはその典籍を含む文書、ならびに典籍の書誌的備考を示した。

11　寺院は、慧友の当時活動していた寺院名を可能な限り示した。

12　自称・呼称は、記事に登場する慧友の自称・呼称を合わせて記載した。

13　分類は、慧友の聖教に対する活動について、書写・手沢・校合・修補等と大まかに分類した。

註

（1）高山寺典籍文書綜合調査団編1973年～2007年『高山寺経蔵典籍文書目録』第1～4・完結編（高山寺資料叢書第3～第24冊）東京大学出版会・汲古書院。

（2）高山寺と智積院聖教の関係については、拙稿2014年「智積院聖教と栂尾高山寺の関係について　附新文庫蔵の明恵関連資料」『根来寺聖教の基礎的研究―智積院聖教を中心として―』平成23～25年科学研究費補助金基盤研究（B）研究成果報告書参照。

（3）『大日本仏教全書』「仏教書籍目録」第1所収。

（4）月本雅幸1999年「高山寺東域伝灯目録書誌解題」高山寺典籍文書綜合調査団編『高山寺東域伝灯目録』（高山寺資料叢書第19冊）東京大学出版会。

（5）奥田勲1978年『明恵　遍歴と夢』東京大学出版会、Ⅵ「埋もれた歌集―高山寺の典籍」2「高山寺経蔵の形成と継承」。

（6）密教辞典編集会編2002年第9刷『密教大辞典』（縮刷版）法蔵館、「僧護」項。

（7）林亮勝・坂本正仁編1984年『改訂増補　豊山年表』真言宗豊山派宗務所。

（8）徳永良次2010年「高山寺蔵「学問印信」掛板について」『北海学園大学人文論集』45号。

（9）寛永10年（1633）の明恵四百年遠忌に際し、仁和寺を再興した覚深が顕証とともに高山寺の復興を行ったとされる。奥田勲1980年「高山寺経蔵の室町・江戸時代の典籍について」『高山寺典籍文書の研究』（高山寺資料叢書別巻）東京大学出版会。

（10）智積院第43世金剛宥性能化の在任期間は、明治23年（1890）5月20日～明治26年（1893）2月であったとされる。智山伝法院編1996年「智積院歴代能化一覧表」（智山教化資料第22集）『智積院略史』真言宗智山派。

（11）宥証相伝の大伝法院流の智山相承については、櫛田良洪1964年『真言密教成立過程の研究』山喜房佛書林、第3編「近世新義真言宗の成立過程」第5章「新義真言教学の発展」（3）「智山伝流の再興運動」に詳しい。

（12）石塚晴通・池田証寿・徳永良次2012年「明治18年高山寺『宝物寄附物古文書什物取調牒』（影印・翻刻）」平成21年度／高山寺典籍文書綜合調査団『研究報告論集』。

附表　慧友僧護　年譜

西暦	和暦	月日	年齢	記事
1775年	安永4年	未詳	1歳	伊賀国上野に生まれる
1796年	寛政8年	2月2日	22歳	右寛政八年〈歳次丙辰〉二月二日於遍照院道場／授両部灌頂印可畢／阿闍梨法印大和尚位謙順
1791年	寛政3年	未詳	27歳	この年、得度する
1792年	享和2年	1月25日	28歳	宝静と共に京都阿弥陀寺にて慈雲に進具す
1792年	享和2年	3月21日	28歳	慈雲85歳の時、「普賢行願讃梵本」一帖を寄与す
1792年	享和2年	未詳	28歳	尊勝陀羅尼行者の一雲と共に慈雲のもとを去る
1792年	享和2年	未詳	28歳	栂尾高山寺へ隠棲する
1803年	享和3年	2月28日	29歳	享和三年〈歳次癸亥〉二月二十八日授与僧護／伝授阿闍梨法院謙順
1803年	享和3年	2月28日	29歳	「享和三年〈歳次癸亥〉二月二十八日授苾芻僧護畢／伝授大阿闍梨耶法印謙順」「右於洛東智積院勧学道場授僧護畢／伝授大阿闍梨法印謙順」
1803年	享和3年	2月29日	29歳	享和三年〈歳次癸亥〉二月二十九日／悃望数回依難黙置令／授与僧護苾芻者也尤／以不可口外可慎々々／伝灯 ཨ ཏ ཨ 謙順
1803年	享和3年	12月28日	29歳	享和三年癸亥十二月二十八日記之／慧友
1804年	享和4年	1月16日	30歳	此中梵文他日可精詳／矣 ཟ ཐ ཡ ཏ ཏ ཀ ཟ ཐ ཡ ཏ ཏ ཁ ／貞元釈教録義浄三蔵伝〈云々〉／仏説療痔病経一巻〈又云療痔〉／大唐景龍四年於大薦福寺／翻経院訳沙門玄傘等／筆授／又有部 ཨ ཏ ཡ 目得迦第二〈四丁〉／与今大同小異／小比丘慧友護謹記／享和甲子孟春十六日為／学周 ཨ ཏ ཨ 持誦此経伏希痔漏乾燥矣
1804年	文化1年	3月26日	30歳	時文化元年甲子三月二十六日／為諳記抄出之畢明後日／為授諸徒也／ ཟ ཐ ཡ ཏ ཏ ཁ ／打つゝき人もあれかし入にふかき／山路の奥の枝打たつぬて
1804年	文化1年	8月27日	30歳	時文化元年甲子八月廿七日／日曜軫宿耳露日於西山瑜／伽処依于栂尾之相承／記之畢／ ཟ ཐ ཡ ཏ ཏ □／モロトモニ、アワレトオボセ、御仏ヨ／君ヨリホカニ、知ル人モナシ
1804年	文化1年	9月10日	30歳	文化元年甲子九月十日書之　慧友謹記
1805年	文化2年	2月	31歳	文化元年甲子冬為自／行書写之／金剛頂持念沙門慧友護／同二年乙丑春二月授之干／弘基闍梨了
1805年	文化2年	6月	31歳	古画八祖像之讃書写奉／慧友大和上／于時文化二乙丑年夏六月下旬武矩再拝
1806年	文化3年	1月1日	32歳	文化三年丙寅元旦／僧伽羅叉謹書
1806年	文化3年	未詳	32歳	文化三年〈甲子〉賜之僧護了画形／可護寺也
1807年	文化4年	8月5日	33歳	正徳元年〈辛卯〉七月廿七日　宥弁書写畢／〈朱書〉文化四年丁卯八月五日於禅那台／一校了賢首院小比丘慧友（合＋十）謹識（以上本奥書）／弘化二年乙巳二月廿二日於水尾山寺謹／書写是一式一巻之納置高山寺禅堂院／東奥留学沙門字義竜／運成敬書
1807年	文化4年	秋	33歳	文化四年丁卯季秋三蔵院／僧護求本

典籍名	成立	典拠	備考	寺院	自称・呼称	分類
		『密教大辞典』 築島裕[1987] 長谷宝秀[1926]に依る				
謙順授与許可印信〈受者僧護〉一通	寛政8年写、謙順筆	高3-聖4-110函-30[2]	(末尾)	遍照院	僧護	伝受
		築島裕[1987]に依る				
		長谷宝秀[1926]に依る		阿弥陀寺		進具
		長谷宝秀[1926]に依る				
		長谷宝秀[1926]に依る				
		長谷宝秀[1926]に依る		高山寺		捨戒
不二口・愛染大事・血脈　四通	享和3年写、謙順授	高3-聖4-110函-154 [2-2][3-2][3-3]	(末尾)		僧護	伝受
伝法許可灌頂印信一通他	享和3年写、謙順授	高3-聖4-110函-155 [4-3][5-3][6-2][7-2] [8-2][9-2][10-2][11-2] [13-2][14-2][15-2]	幸心法流 十六通の内、多数あり (末尾)	智積院 勧学道場	僧護・芯芻僧護	伝受
一印一明重位　一通	享和3年写、謙順授	高3~聖4~110函~155 [16~2]	幸心法流 十六通の内 (末尾)		僧護芯芻	伝受
題未詳　一帖	享和3年写、慧友筆	高3-聖4-111函-248	(奥書)		慧友	書写
仏説療痔病経　一帖	享和4年写	高2-聖4-35函-20	(奥書)(別筆)		[illegible]・ [illegible]・ 小比丘慧友護	書写
(授教誡等)一括	文化1年写、慧友筆	高3-聖4-111函-303	(奥書)		[illegible]	抄出
題未詳　一葉	文化1年写、慧友筆	高3-聖4-111函-265	(奥書)		[illegible]□	書写
種字曼荼羅〈金剛界〉一鋪	文化1年写	高4-聖4-164函-13	(表書)		慧友	書写
入我々入観　一帖	文化1年写、慧友筆	高4-聖4-129函-92[1]	(奥書)		金剛頂持念沙門 慧友護	授与
包紙　一紙	文化2年写	高4-聖4-157函-20	(表書)		慧友大和上	包紙
(真言)一通	文化3年写	高4-聖4-166函-10	(奥書)		僧伽羅叉	書写
道肝　一帖	享保10年写、謙順筆	高3-聖4-100函-22[2]	(奥書)(朱書) (別筆)		僧護	手沢
唯心観行式　一帖	弘化2年写、運成筆	高3-聖4-113函-67	(奥書)	賢首院	賢首院小比丘慧友	校合
大方広仏華厳経序・目録・巻第一(新訳)一帖	清・康熙7年刊	高2-聖4-55函-1	(端書) (表紙見返)	三尊院か	僧護	求本

西暦	和暦	月日	年齢	記事
1807年	文化4年	10月19日	33歳	「文化四年丁卯小春十九日為二三子出之了　六歳小比丘友謹記」(中略)(裏表紙紙背)「文化五年歳次戊辰五月／禅念沙門慧友護」
1807年	文化4年	冬	33歳	文化四年丁卯冬修補之了／ཟ ཐ ཡ ཏ
1808年	文化5年	2月24日	34歳	文化五年壬申二月二十四日於于栂尾山報恩院／道場従師主僧正謙順阿闍梨奉伝授之了／十無尽院沙門慧友護謹記／師主僧正御歳七十又三歳予一享年三十又八(朱消)歳也
1808年	文化5年	6月	34歳	文化五戊辰夏六月修補／慧友謹記
1808年	文化5年	8月4日	34歳	文化五年戊辰八月四日授与于定潤沙弥畢／伝法大阿闍梨耶苾蒭僧護(花押)
1808年	文化5年	12月24日	34歳	文化五年十二月廿四日僧護重／加行護摩修行之砌調之
1808年	文化5年	5日	34歳	古題号表紙／唯心観行式表題　上人御筆／也尤モ可大切者也〈文化五年戊辰五日山門二階ヨリ見出
1808年	文化5年	未詳	34歳	末尾に新修補紙ありて「文化第五戊辰修補之依為／先師経弁上人染毫也／十無尽院主恵猷(朱書)『慧友護』」なる識語あり
1809年	文化6年	10月	35歳	文化六年巳己十月令／修補之畢／十無尽院沙門／慧友
1809年	文化6年	冬	35歳	文化六巳冬高山寺沙門慧友記／勧流／不動明王法／理明御房撰　三帖／空達上人筆也
1809年	文化6年	冬	35歳	建久六年之本／秘蔵記／文化六年己巳冬／慧友記
1810年	文化7年	2月22日	36歳	文化七年庚午／仲春廿二日／為定潤書／ཟ ཐ ཡ ཏ
1810年	文化7年	4月7日	36歳	(奥書)「於高山寺三加禅丈室沙門慧友僧護」(以上「文化七年」の右に傍書)文化七年庚午卯月七日為明日沐像〈上人御謹識〉／式修行書之了願以此功徳共／一切衆生証清浄妙法身云爾(紙背奥書)文化七年庚午四月七日於栂尾山三加禅書／沙門慧友僧護
1810年	文化7年	7月22日	36歳	(奥書)(前略)文化五戊辰年冬十一月高山寺沙門慧／友僧護謹記(別筆)(朱書)我弟子僧護。従今生後。生々世々。流／転之中。至成仏持。決定不離華厳／経王。(中略)時文化七年庚午秋七月／廿二日夜於高山寺三尊院浄室謹誌／小比丘慧友僧護〈春秋三十又五歳〉(中略)栂尾山中非人慧友僧護／生々世々護寺ノ本ナリ(後略)
1810年	文化7年	7月	36歳	文化七年庚午七月修補／十無尽院僧護記之
1810年	文化7年	11月28日	36歳	文政七年甲申霜月念八日再校了／沙門僧護誌之
1810年	文化7年	未詳	36歳	此本書写／正応元年也然者至茲今天明六年／丙午四百九十九年也至今文化七年／庚午五百二十三年也十無尽院僧護記／天明六年丙午七月十八日／令補書之ཏ ཀ 仏子有証

典籍名	成立	典拠	備考	寺院	自称・呼称	分類
雑交記　一冊	江戸末期写	高4-聖4-133函-27	○諸書よりの抜書なり、文中に「記事」等の記あり、又裏表紙紙背に「記事」の記あり		六歳小比丘友・禅念沙門慧友	書写
高山寺修正初夜導師次第　一帖	南北朝時代写	高4-聖4-197函-3	(奥書)(後筆)		ꤌꤢꤟꤢꤢꤡ	修補
慧友伝授記　一通	文化5年写、慧友筆	高3-聖4-110函-156[3]	(末尾)	報恩院道場	十無尽院沙門慧友護	伝受
倶舎講略式　一帖	建久3年写	高4-聖4-167函-1[2]	(表紙左)(表紙右)「明慧上人御筆」		慧友	修補
持戒清浄印言　一通	文化5年写、慧友筆	高4-聖4-157函-33[8]	(奥書)諸法雑々の内		伝法大阿闍梨耶苾蒭僧護	授与
五宝　一包	文化5年写、慧友筆	高4-聖4-172函-2[63]	(包紙封文)(作法等雑々)の内		僧護	包紙
古題号表紙　一包	鎌倉初期、明恵筆	高4-聖4-164函-2[1]	[1]包紙一紙(表書)			包紙
宝楼閣印等　一帖	鎌倉初期写	高4-聖4-129函-52	修補紙		十無尽院主恵猷	修補
神分　一帖	文化6年写、密護写	高3-聖4-93函-2[4]	(奥書)(裏表紙)	十無寺院	十無尽院沙門慧友	修補
不動明王念誦次第一帖	鎌倉初期写	高3-聖4-98函-33	(包紙表書)○以上、第31号より第33号まで江戸末期包紙にて一括す		高山寺沙門慧友	包紙
秘蔵記末文　一帖	文化6年写、密護写	高3-聖4-112函-11～13	(包紙表書)○以上第11号より第13号までお三帖一包なり、包紙は書状を転用す、包紙表書に「記事」とあり		慧友	包紙
如意宝心真言　一帖	文化7年写、慧友筆	高4-聖4-167函-8[32]	(奥書)(慧友上人筆蹟等)の内		ꤌꤢꤟꤢꤢꤡ	書写
沐像法・至心廻向一通	文化7年写、慧友筆	高3-聖4-111函-299	(奥書)(紙背奥書)	三加禅丈室	沙門慧友僧護	書写
大方広仏華厳経十無尽蔵品　一帖	江戸中期写、永弁筆	高4-聖4-155函-8	(奥書)(別筆)(朱書)	高山寺三尊院浄室	高山寺沙門慧友僧護・弟子僧護・小比丘慧友僧護・栂尾山中非人慧友僧護	校合
地蔵講式　一巻	南北朝時代写	高3-聖4-113函-6	(巻首紙背)	十無尽院	十無尽院僧護	修補
持経講式　一巻	寛文９年写、礼弁写	高3-聖4-113函-7	(奥書)(別筆)		沙門僧護	修補
観世音講式　一葉	天明六年写、宥証筆	高4-聖4-137函-18[10]	(外題右下)「雑々」の内		十無尽院僧護	相伝

慧友僧護について

西暦	和暦	月日	年齢	記事
1811年	文化8年	1月14日	37歳	文化八年辛未孟春十四日　一校了／華厳宗沙門慧友識／春秋三十有六歳
1812年	文化9年	2月24日	38歳	文化九年壬申二月二十四日於于栂尾山報恩院／道場従僧正謙順阿闍梨受此秘訣了／十無尽院沙門慧友護謹記
1812年	文化9年	2月	38歳	慶円上人授与宝篋上人以印信為宗賜〈小僧〉／台／実其後師資相承謙順相承賜小僧／慧友護畢／文化九年壬申二月授与慧友護／阿闍梨僧正法印大和上位謙順
1812年	文化9年	3月	38歳	文化九年壬申三月証明者〈僧護隆典〉
1812年	文化9年	10月28日	38歳	文化九壬申十月廿八日発願再興／阿闍梨僧護〈三十〉
1813年	文化10年	1月21日	39歳	文化十年癸酉孟春念一日託于円成房／令書写之予一校抑此法軌者故本／願上人之御作也後葉最可尊重也伏願／依此法門修習瑜伽共一切衆生証入文／殊師利般若波羅密海〈云爾〉／明慧上人第十八葉遺弟沙門僧護記于／十無尽院禅房持春秋三十有九歳也（中略）此尊為山居修学之本尊爾後山主十無／尽院慧友律徳語〈予〉云文殊大聖者則／開基明恵上人特所尊信即有上人撰述／念誦次第等〈予〉聞之不勝随喜之至薦懇願以幸有伝受此法軌等（後略）
1813年	文化10年	7月25日	39歳	唐訳華厳経全八十巻同倫貫処会品目／等合八十二巻文化四年丁卯季秋念五日／求之高山寺十無尽院沙門僧護三十三／此中第一巻首題同第八十巻首題者／師主僧謙順染筆中間七十九巻定渕／染筆也伏願見聞同入 ཏ ཏ ཏ ཏ 之／性海証華厳三昧云爾文化十年癸酉／七月念五日僧護謹記春秋三十有九歳
1813年	文化10年	冬	39歳	梵本以御筆本校之了／文化十年癸酉冬一校了加修補願以此功力証于／ ཏ ཁ ཁ ཁ ཁ ཁ ཁ 云爾十無尽院沙門恵友僧護記
1814年	文化11年	10月23日	40歳	「文化十一年申戌十月廿三日対仁和寺少補僧都宏練闍梨／一校了又書写一本以奉備／大明神法楽沙門僧護記」「友護孝／此廿一字常瑜伽院御室寛性御筆也」
1815年	文化12年	2月17日	41歳	（前略）文化十二年二月十七日於高山寺報恩院／以恵友御房之御本書写了／沙門宏練〈卅二〉（以上本奥書）
1815年	文化12年	2月19日	41歳	本云／一本有後題云無字輪一本々々／治承二六一以 ཨ 御本交点了　玄証／寛文五年五月九日於栂尾山摩尼殿以／石水院経蔵之本写之了　顕証／避夏日之炎暑／対殿庭之水石／同年五月日於同殿奉対　顕証師／伝受之了後後日写書之　永弁／文化十二年二月十九日於都賀尾山閼伽井坊／対慧友上人伝受之了同廿三日申剋許於／報恩院東軒以永弁上人自写之本書之／于時微雨霏々春寒未退開扉看山四無人声／只聞孤鶯廻和渓流之響而已／求法苾蒭宏練〈春秋三十二〉／自警／遁跡楞伽窟　渓山自作隣／若酬諸品浄　務払胸中塵
1815年	文化12年	5月12日	41歳	（別筆）文化十二年乙亥五月十二日於十無尽院／対宏練僧都以応永廿年澄意書／写本令校合畢／沙門僧護
1815年	文化12年	6月20日	41歳	[1]（奥）「華厳宗沙門慧友謹記／文化己巳春三月朔日」（〇十無尽院賢首院より槙尾山御衆中宛、三月朔日付、表裏余白に慧友筆書あり）[4]（表書）光明真言句義釈聴集記〈二巻〉／同句義釈抄一巻／三時礼釈　一巻十無尽院僧護／右四巻大破修補スヘシ／文化十二年乙亥六月廿日記
1816年	文化13年	2月21日	42歳	[4]文化13年丙子二月十二日一校了／沙門僧護誌 [5]文化十三丙子仲春念一於吉祥台一校了／慧友誌
1818年	文政1年	9月8日	44歳	金剛頂瑜伽経第二／奥批如第一巻全同〈云々〉／寛弘五年三月廿六日於仁和寺之内南御室受学高尾／法照闍梨畢　沙門叡算之／文政元年九月八日　沙門慧友記
1818年	文政1年	冬	44歳	文政元年甲子冬奉修補了／十無尽院沙門慧友護／ ཏ ཁ ཁ ཁ ཁ ཁ ཁ ／ ཁ ཁ

典籍名	成立	典拠	備考	寺院	自称・呼称	分類
多聞天講式〈二本各別〉一冊	万治3年写、永弁筆	高3-聖4-113函-69	(奥書)(朱書)		華厳宗沙門慧友	校合
生身地蔵大事秘決一通	文化9年写、慧友受	高3-聖4-110函-157[4-2]	慧友授与印信〈受者凝然〉の内(末尾)		十無尽院沙門慧友護	伝受
謙順授与生身地蔵印信〈受者慧友〉一通	文化9年写、謙順授	高3-聖4-110函-156[2]	(末尾)		慧友護	伝受
(大明神読誦目録)一通	文化9年写	高4-聖4-137函-18[4]	(奥書)「雑々」の内		僧護	書写
(三重宝塔事)一通	文化9年写、慧友筆	高4-聖4-167函-8[24]	(奥書)(慧友上人筆蹟等)の内		阿闍梨僧護	発願
文殊師利菩薩念誦次第　一帖	文化11年写、宏練筆	高3-聖4-76函-85	(奥書)	十無尽院禅房	明慧上人第十八葉遺弟沙門僧護	相伝
大方広仏華厳経巻第八十一　一帖	清・康熙7年刊	高2-聖4-55函-81	(奥書)(朱書)	十無尽院	十無尽院沙門僧護	求本
内護摩事　一巻	寛元四年写、仁真筆	高4-聖4-129函-84	(奥書)(別筆)(朱書)		十無尽院沙門慧友	修補
(慧友筆蹟一括)	江戸末期、慧友筆	高4-聖4-137函-16[2]	[2]包紙一紙(端裏)(朱書)		沙門僧護・友護	包紙
明恵上人病中並夜作法　一冊	嘉永7年写、真豪筆	高4-聖4-159函-7	(本奥書)	高山寺報恩院	恵友	相伝
華厳経心陀羅尼大方広仏華厳経入法界品頓証毘盧遮那法身字輪瑜伽儀軌　一冊(二書合巻)	文化12年写、宏練筆	高2-聖4-62函-125	(奥書)	閼伽井坊	慧友上人	伝受
明恵上人神現伝記一巻	文安2年写、宗耀筆	高4-聖4-148函-7	(奥書)(別筆)	十無尽院	沙門僧護	校合
(明恵上人関係書蹟類)	江戸末期写、慧友筆	高4-聖4-137函-13[1][2][4][8][10][11][15][16]			十無尽院僧護	包紙
真聞集一・二・三・四・五・五　六冊	江戸時代写	高4-聖4-134函-8[4][5]	[4](奥書)(又別筆)[5](奥書)(別筆)	吉祥台	沙門僧護・慧友	校合
(慧友筆蹟一括)	江戸末期、慧友筆	高4-聖4-137函-16[14]	[14]包紙一紙(端書)		沙門慧友	包紙
御夢記　一巻	鎌倉初期写、明恵筆	高4-聖4-148函-85	(修補奥書)		十無尽院沙門慧友護	修補

西暦	和暦	月日	年齢	記事
1820年	文政3年	7月6日	46歳	貞元八年四月廿一日安国寺沙門静居／唐静居法師撰　進上／大周経玄義／文政三年辰七月初六日／被閲了沙門僧護誌
1822年	文政5年	夏	48歳	「慧友之本」「文政五年夏／方便智院定真上人御本以／書写畢／元無名抄今真言要目／云フ云々」
1822年	文政5年	7月21日	48歳	(見返)文政五年歳次壬午盆秋念一日修補之／沙門慧友護 ཐ ཁ (奥書)文政五年壬午七月念一日修補之了／十無尽院沙門僧護記
1824年	文政7年	8月14日	50歳	文政七年甲申後八月十四日／奉修補了／日出先照高山沙門／慧友僧護謹書／願以此功力　知見此宝蔵　欲令／開授一切衆生〈云々〉
1824年	文政7年	9月14日	50歳	(朱書)「文政七年甲申壬九月十四日於三尊院丈室／一校了　十無尽院沙門慧友／栂山の松のひかけに書つめし／昔おほゆることのはそこれ／慧友書」(朱書)「文政七年十一月十四日於三尊院一校了／十無尽院沙門慧友護謹誌
1824年	文政7年	10月18日	50歳	○包紙あり、表に十月十八日附書状、裏に文政七年甲申慧友筆写の漢詩あり(備考記載)
1825年	文政8年	1月8日	51歳	文政八年〈乙酉〉初春八日／後喜多院御室一品大王之御本奉書写之以／授与之密友女房畢了／伝灯大阿闍梨耶僧護(花押)／花厳沙門
1826年	文政9年	3月25日	52歳	文政九年歳次丙戌三月念五日／一校了／高山寺沙門慧友護誌
1826年	文政9年	12月14日	52歳	(奥書)文政九年丙戌十二月十／四日為自行書写／了／大悲胎蔵持念沙門／ཐ ཁ ཨ ཏ ཏ ཧ　梵文栂尾上人御筆也／云々(紙背奥書)文政九年歳次丙戌季冬／念三日灯下走筆孟／浪不次寒律凜然／加以亀毛如説奉行／共一切衆生証薩婆／若但覚歳衰如一／歳云爾／イタツラニスキシ五十／ノ夢枕イツノ世ニカハ／サメントスラム／高山寺念沙門／慧友護〈春秋五十又一〉
1826年	文政9年	12月20日	52歳	栂尾山義仁親王御筆　十無尽院蔵／太子講式　一巻　現在也／文政九年丙戌十二月廿日僧護敬記
1827年	文政10年	3月6日	53歳	円融御宇／自天元五年壬午至文政十年丁亥／凡七百八十五年也／文政十年丁亥後三月六日／十無尽院沙門僧護／小島真誉〈仁和附記本願第九釈書第十一(後略)
1827年	文政10年	4月8日	53歳	高山寺法鼓台真言所蔵真第一箱／文政十丁亥閏六月十九日於御室心蓮院請右秘本書写校合訖／蒙十無尽院慧友阿闍梨之懇命賜自筆朱書梵本数日之間／請雨秘法別記等奉伝受書写訖／此年丁亥四月自八日至十日三箇日之間於上西酉宝幢院受者七人／随淳覚僧正請雨経一軸不空訳呉音読奉伝受了其本奥云／集数本書写校点畢　東寺沙門成賢本〈清濁星緑青也〉
1827年	文政10年	6月6日	53歳	右石山内供御作両部次第私記二帖／文政十年丁亥後六月六日僧護誌之
1827年	文政10年	6月15日	53歳	文政十年丁亥潤六月十五日一校了／願以此小縁生々世々奉仕結縁之一助云爾／高山持念沙門慧友護敬／記于三尊丈室〈春秋五十又三〉
1828年	文政11年	4月15日	54歳	文政十一歳資戊子四月望日尋／踪興畢奉修補畢　沙門憲世高謹記(以上本奥書)
1828年	文政11年	7月11日	54歳	歳次戊子／文政十一年七月十一日於于高山寺楞伽山羅婆／那坊略抄之了、観門真言一依本経儀軌／修禅次第、全依上人大師之説謹書之、猶／須精詳矣、大悲胎蔵持念沙門慧友護〈享年五十又四〉
1828年	文政11年	10月2日	54歳	梵字(一)依　栂尾相承之本交合之〈云々〉／(文)政戊子初冬初二日謹校之了/□山中持念沙門慧友謹□
1828年	文政11年	11月30日	54歳	文政十一年戊子霜月三十日於楞伽山／羅婆那宮修此秘法之砌書之／了今日於石水院殿諸衆一日不断／誦此陀羅尼也云々　慧友護敬記

典籍名	成立	典拠	備考	寺院	自称・呼称	分類
法花経頸次第　一巻	建長2年写、栄然筆	高3-聖4-74函-16[2]	(包紙)○本紙は本来別本なれども姑く此の処に入る		沙門僧護	包紙
真言要目　一冊	文政5年写、慧友筆	高3-聖4-118函-53	(表紙)		慧友	書写
誓願舎利講式　一巻	康応2年写、仁耀筆	高1-聖1-202	(表紙見返)(奥書)(別筆)	十無尽院	沙門慧友護 ᳬ ᳬ・十無尽院沙門僧護	識語
妙法蓮華経巻二一帖	江戸初期刊	高2-聖4-18函-8	(奥書)		日出先照高山沙門慧友護	修補
五蘊観〈并〉聞書一冊	元禄7年写	高4-聖4-125函-33	(奥書)(朱書)	三尊院	十無尽院沙門慧友・慧友	校合
入曼荼羅要抄　一帖	院政期写	高3-聖4-118函-22	(記事記載)			包紙
悉曇前作法　一帖	文政8年	高2-聖4-53函-406	(奥書)		伝灯大阿闍梨耶僧護・花厳沙門	書写
駄都講式　一冊	文政9年刊	高3-聖4-113函-83	(奥書)		高山寺沙門慧友	校合
三部四処字輪・秘密八印・大真言王・百光遍照王　一帖	文政9年写、慧友筆	高3-聖4-111函-140	(奥書)(紙背奥書)		大悲胎蔵生沙門慧友護・高山寺念沙門慧友護	
(慧友筆蹟一括)	江戸末期、慧友筆	高4-聖4-137函-16[20]	[20]包紙残欠二葉(二)(表書)		僧護	包紙
(慧友筆蹟一括)	江戸末期、慧友筆	高4-聖4-137函-16[3]	[3]包紙一紙(表書)		十無尽院沙門僧護	包紙
大雲輪請雨経巻下	江戸後期刊	高2-聖4-33函-33[2]	(刊記)(一部抜粋)	十無尽院	慧友阿闍梨	伝授
(金胎念誦次第)二帖	保延3年写	高1-聖2-54[附]	(識語)		僧護	包紙
尾州霊鷲山長母寺開基無住大円国師行状一冊	文政10年写、慧友筆	高3-聖4-117函-34	(巻中識語)(朱書)	三尊丈室	高山持念沙門慧友護	校合
(高山寺内旧跡之記)一通	江戸末期写、慧友筆	高4-聖4-167函-8[12]	(奥書)(慧友上人筆蹟等)の内			書写
四無量心三摩地一冊	江戸末期写、慧友筆	高3-聖4-114函-39	(奥書)	楞伽山羅婆那坊	大悲胎蔵生持念沙門慧友護	抄出
大随求陀羅尼　一巻	室町初期写	高4-聖4-179函-20	(奥書)(朱書)		□山中持念沙門慧友	識語
宝楼閣灌頂陀羅尼一通	文政11年写、慧友筆	高2-聖4-53函-396	(奥書)		慧友護	書写

西暦	和暦	月日	年齢	記事
1828年	文政11年	11月	54歳	(表紙)木上御相承之本也　慧友護／ཤ ཁ方／十無尽院之本(奥書)文税十一年十一月　日応　慧友上人之需奉書写之／宏練
1828年	文政11年	未詳	54歳	
1829年	文政12年	1月14日	55歳	文政十二年歳次己丑正月十四日於／楞伽山禅室為ཀ ཆ ཡ ཤ一／校了／ཟ ཐ ཡ ཤ ར ས／此云慧友護也
1829年	文政12年	2月28日	55歳	「他日写得スヘシ〈云々〉」「文政十二己丑二月廿八日記之／慧友」「木上御伝」「定真上人御筆也」
1829年	文政12年	3月6日	55歳	文政十二年己丑三月六日以　空達上人御房／御自筆奉書写之了　慧友護
1829年	文政12年	3月13日	55歳	文政十二年三月十三日依于／相承之秘説為自行記之／了
1829年	文政12年	3月17日	55歳	他日浄書スヘシ／文政十二年己丑弥生十七日於楞伽山中／依于栂尾相承口決為密友密護／書連之了　沙門慧友護　六
1829年	文政12年	春	55歳	先師永弁上人手沢也文政己丑春為□持加修補了　ཟ ཐ ཡ ཤ ཤ ར
1829年	文政12年	4月16日	55歳	此中駄貌薩羅底調御義／如智度論中説。此梵本栂尾／相承也。与摂大軌有具略摂／軌及現本三家次第等。写誤／不少云々　文政十二年己丑四月十六日
1829年	文政12年	6月18日	55歳	(奥書一)三摩耶戒阿利沙梵本以相承本／謹以書写之伏願日夜住三摩耶／以身語意〈抱奉献諸仏菩薩海会中也〉／云々己丑六月十八日記楞伽山／沙門慧友護(奥書二)時文政十二年己丑六月十八日以相承／梵本書写一校了／ ཟ ཐ ཡ ཤ ར ས(朱書)「明日為密友密護也」
1829年	文政12年	7月1日	55歳	(表紙)「慧友」(紙背)「文政十二年七月一日於于楞伽山／一校了慧友護記」
1829年	文政12年	12月22日	55歳	上人御筆跡／右十一首御詠草奉書写／之了／文政十二丑十二月廿二日／慧友護
1830年	文政13年	7月11日	56歳	文政十三年庚寅七月十一日／十無尽院慧友護／ཤ乙
1830年	文政13年	7月11日	56歳	文政十三年庚寅七月十一日／十無尽院慧友護／高山鐘楼崩落院宇大破〈云々〉/去二日未尅大地震動山川／崩倒京師皇城民屋神／社仏閣破損無極前代未聞／未曾有〈云々〉
1830年	天保1年	5月	56歳	右十無尽院蔵中相辛櫃之銘三十六巻之内金剛頂経三巻現存〈云々〉／天保元年七月奉修補之　高山沙門慧友謹記
1830年	天保1年	7月	56歳	長元八年(中略、奥書同文を写す)天保元年七月奉修補之　高山沙門慧友謹記
1832年	天保3年	3月20日	58歳	(以上本奥書)天保三年〈壬辰〉三月廿日於十無尽院精室一見了／于時雨降〈云々〉沙門慧友〈五十八〉
1832年	天保3年	3月21日	58歳	天保三年壬辰三月廿一日奉修補之／修補施主能州石動山宝遠坊高照也／十無尽院沙門慧友護記之
1832年	天保3年	3月21日	58歳	天保三年壬辰三月廿一日奉修補之／修補施主能州石動山宝遠坊高照也／十無尽院沙門慧友護記之
1832年	天保3年	5月19日	58歳	天保三年壬辰五月十九日命密護／令書写了　沙門慧友護〈五十又八〉
1832年	天保3年	6月14日	58歳	(前略)堀河院御宇／長治元年甲申／至天保三年壬辰凡天保壬辰六月十四日一校了淋雨泡沱／十無尽院沙門慧友護
1832年	天保3年	7月6日	58歳	天保壬辰七月六日記の慧友筆目録あり
1832年	天保3年	8月8日	58歳	〈天保三年壬辰八月八日〉／照念院殿下御法事日記

典籍名	成立	典拠	備考	寺院	自称・呼称	分類
文殊五十万遍次第 一巻	文政11年写、宏練筆	高3-聖4-98函-267	(表紙)(黄書)		慧友護・慧友上人	表紙
(文政十一年御経蔵開封宝物拝見之差図) 一鋪	江戸末期写、慧友筆	高4-聖4-167函-9[20]	(慧友上人筆跡等)の内			書写
善知識供式　一帖	江戸初期写	高3-聖4-113函-52[1]	(奥書)(朱書)	(楞伽山禅室)	ཤ་ཀ་ཡ་ཤ · ཐ་ཀ་ཡ་ཤ་ཏ་ཀ	校合
阿弥陀頸次第　一帖	鎌倉中期写、定真筆	高3-聖4-75函-41[1]	包紙 一紙(表書)		慧友	包紙
(秘蔵書目録)一通	文政12年写、慧友筆	高4-聖4-157函-29[16]	(奥書)口伝等雑々一括の内		慧友護	書写
五部肝心念誦次第 一通	文政12年写、慧友筆	高2-聖4-53函-631[1][2]	(奥書)			書写
五相成身観　一冊	文政12年写、慧友筆	高4-聖4-126函-56	(奥書)(朱書)	楞伽山	沙門慧友護	書写
御影供祭文　一巻	嘉永5年写	高3-聖4-113函-40	(端書)(表紙)		ཐ་ཀ་ཡ་ཤ་ཏ་ཀ	校合
十号具足伽陀　一通	文政12年写、慧友筆	高2-聖4-53函-397	(奥書)			書写
三昧耶戒梵本　一冊	文政12年写、慧友筆	高4-聖4-126函-43	(奥書一) (奥書二)	楞伽山	沙門慧友護	書写
華厳入法界四十二字輪瑜伽法　一帖	寛文9年写、永弁筆	高4-聖4-129函-10[1]	(紙背)	楞伽山	慧友	校合
上人詠草　一通	文政12年写、慧友筆	高2-聖4-53函-641	(奥書)		慧友護	書写
(第一九八函) (蓋裏墨書)	文政13年、慧友筆	高4-聖4-198函	(蓋裏墨書)		十無尽院慧友護	書写
(第一九八函) (函底墨書)	文政13年、慧友筆	高4-聖4-198函	(函底墨書)		十無尽院慧友護	書写
金剛頂一切如来真実摂大乗現証大教王経巻第一	弘仁6年写	高1-重11[1]	(表紙見返) (別筆)		高山沙門慧友	修補
金剛頂一切如来真実摂大乗現証大教王経巻第三	弘仁6年写	高1-重11[3]	(表紙見返)) (朱書)		高山沙門慧友	修補
雑由誌　一冊	天保13年写、慧友筆	高3-聖4-117函-5	(奥書)	十無尽院精室	沙門慧友	書写
胎蔵界伝法灌頂作法〈初夜　草案未再治〉一巻	南北朝時代写	高2-聖4-66函-15	(奥書)	十無尽院	十無尽院沙門慧友護	修補
灌頂集記〈胎蔵界下〉一巻	南北朝時代写	高2-聖4-66函-16	(奥書) ○第14号より第16号まで僚巻なり	十無尽院	十無尽院沙門慧友護	修補
不可虫払箱事　一通	江戸末期写	高4-聖4-157函-29[15]	(表紙)(朱書)		沙門慧友護	書写
(慧友筆蹟一括)	江戸末期、慧友筆	高4-聖4-137函-16[16]	[16]包紙 一紙(表書)		十無尽院沙門慧友護	包紙
両部曼荼羅功徳略抄 一帖	鎌倉中期写	高3-聖4-115函-96	(貼紙)			識語
十無尽院之記　一冊	江戸期写、巻尾二紙を除き慧友筆	高4-聖4-155函-37	(内題)			書写

西暦	和暦	月日	年齢	記事
1832年	天保3年	11月７日	58歳	東寺結縁灌頂三摩耶戒私記〈胎蔵〉／仁治二年三月十一日於栂尾住房／以仁真令書写畢同日校畢／以勧修寺出雲僧都御房本書之／定真　於十無尽院母屋授之了／天保三年壬辰十一月七日以此御本伝授之了／阿闍梨沙門慧友護〈年五十八〉／受者　大法師密護／（後略）
1832年	天保3年	11月10日	58歳	天保三年〈歳次壬辰〉十一月十日夜於高山寺／十無尽院道場授大法師密護了／大阿闍梨沙門慧友護
1832年	天保3年	11月10日	58歳	右天保三年〈歳次壬辰〉十一月十日於高山寺／十無尽院道場授両部灌頂許可了／大阿闍梨沙門慧友護
1832年	天保3年	11月10日	58歳	天保三年〈歳次壬辰〉十一月十日初夜／於高山寺十無尽院道場授／大法師凝然了／大阿闍梨沙門慧友護
1832年	天保3年	未詳	58歳	
1833年	天保4年	２月17日	59歳	「ཐ ཁ流十八道以此本修之／本願阿闍梨之遺法也子〈可依行〉可珍敬〈云々〉／十無尽蔵本」「天保四年癸巳二月初一日密護／十八道加行修習之砌令新写／之了　沙門慧友護〈春秋五十又九／二月十七日一校　時春雨降〈云々〉」
1833年	天保4年	９月17日	59歳	慶円上人授与宝篋上人以印信為宗贈〈小僧〉／台実其後師資相承慧友護闍梨賜〈小僧〉／凝然畢／天保四年季歳次癸巳九月十七日授与凝然／大阿闍梨大法師慧友護
1833年	天保4年	９月17日	59歳	天保四年九月十七日奉伝之凝然／伝受師阿闍梨大法師恵友護
1833年	天保4年	９月17日	59歳	天保四年癸巳九月十七日印可
1834年	天保5年	３月	60歳	天保五年甲午三月根本大和上一千年忌之日
1834年	天保5年	４月19日	60歳	天保五年歳次甲午四月十九日一校了／故大法師定渕書写之本病中誤字多々為／追福一校〈云々〉／沙門慧友護〈耳順〉
1834年	天保5年	６月４日	60歳	（奥書）建仁二年十一月十七日書之／永真／天保五年甲午三月廿日奉書写了／大法師密護／（朱書）「同年六月四日於十無尽院一校了／慧友護〈満六十〉」
1834年	天保5年	６月27日	60歳	原本折紙也今就修補之便為巻本〈云々〉／天保五年甲午六月念七日／十無尽院沙門慧友護記之
1834年	天保5年	６月27日	60歳	原本折紙也今就修補之便為巻本〈云々〉／天保五年甲午六月廿七日／十無尽院沙門慧友護記之
1834年	天保5年	９月27日	60歳	天保五年甲午九月廿七日／授与金剛子凝然／阿闍梨沙門慧友護
1835年	天保6年	１月15日	61歳	
1835年	天保6年	２月25日	61歳	先師空達上人御筆可珍貴云々／天保六年歳次乙未二月二十五日／奉修補之了来月上旬因修／伝法灌頂也心中所願唯有仏知／見而已／ ꤁ꤢꤟ 伝灯大法師慧友護／年六十又一歳／受者　大法師密護／年二十又六歳也
1835年	天保6年	２月25日	61歳	先師空達上人御筆可珍重也／天保六年乙未二月二十五日一校了／来月上旬因修伝法灌頂也／ ꤁ꤢꤟ 慧友護〈六十又一〉／受者　大法師密護〈廿又六〉／心中所願唯有仏知見／而已

典籍名	成立	典拠	備考	寺院	自称・呼称	分類
(慧友筆蹟一括)	江戸末期、慧友筆	高4-聖4-137函-16[9]	[9]包紙 一紙(表書)		阿闍梨沙門慧友護	包紙
最極大悲法界躰 一通	天保3年写	高4-聖4-148函-76[8]	(末尾)明上人口伝等 一包の内	高山寺 十無尽院道場	大阿闍梨沙門慧友護	授与
慧友授与伝法灌頂許可印信〈受者密護〉 一通	天保3年写	高4-聖4-148函-76[9]	(末尾)明上人口伝等 一包の内	高山寺 十無尽院道場	大阿闍梨沙門慧友護	授与
最極大悲法界躰 一通	天保3年写、慧友筆	高4-聖4-148函-84[22]	(奥書)御口伝 一包の内	高山寺 十無尽院道場	大阿闍梨沙門慧友	授与
(本尊加持之事等) 一通	天保3年写、慧友筆	高4-聖4-167函-9[52]	(慧友上人筆蹟等)の内			書写
釈迦如来念誦次第 一帖	鎌倉中期写	高3-聖4-75函-43[1]	包紙　一紙 (表書)		沙門慧友護	包紙
慧友授与印信 〈受者凝然〉四通	天保4年写、慧友授	高3-聖4-110函-157 [1-2][2-2][3-2]	(末尾)同意趣記事多数あり		大阿闍梨法師慧友護	授与
最極秘印灌頂印 一通	天保4年頃写	高4-聖4-148函-84[23]	(奥書)御口伝 一包の内		伝受阿闍梨大法師恵友	授与
十無尽院道場図 一鋪	江戸末期写、慧友筆	高4-聖4-173函-9[6]	(巻中識語) 雑々書の内			書写
(灌頂伝得記)一通	天保5年写	高4-聖4-173函-9[12]	(奥書)雑々書の内		[illegible]	書写
浴像私次第　一帖	文化12年写、定渕筆	高3-聖4-87函-122[1]	(奥書)(朱書)		沙門慧友護〈耳順〉	校合
大唐当朝伝法人々説 一帖	天保5年写、密護筆	高3-聖4-104函-73	(奥書)(朱書)	十無尽院	慧友護	校合
[illegible]　一巻	建久5年写、定真筆	高2-聖4-66函-27	(新表紙)(識語)○第18号より第27号まで、慧友修理一括す	十無尽院	十無尽院沙門慧友護	修補
臨終印言〈大御室伝〉 一巻	鎌倉中期写	高3-聖4-88函-10	(後補表紙)	十無尽院	十無尽院沙門慧友護	修補
臨終印言　一通	江戸末期写	高4-聖4-157函-33[6]	(末尾)諸法雑々の内		阿闍梨沙門慧友護	授与
(天保六年正月十五日大田備前守宛慧友書状)一通	天保6年写、慧友筆	高4-聖4-167函-8[27]	(慧友上人筆蹟等)の内			書写
初夜法則〈灌頂〉一帖	鎌倉初期写、定真筆	高2-聖4-68函-13	(奥書)(朱書、慧友筆)○第13号・第14号僚巻なり、二帖古包紙にて一括		[illegible]伝灯大法師慧友護	修補
後夜作法　一帖	鎌倉初期写、定真筆	高2-聖4-68函-14	(奥書)(墨書、慧友筆)		[illegible]慧友護	校合

西暦	和暦	月日	年齢	記事
1835年	天保6年	3月9日	61歳	天保六年〈歳次乙未〉三月九日授密護畢／大阿闍梨沙門慧友
1835年	天保6年	4月	61歳	(前略)設雖為同壇者輒不可外聞者也時天／保六年乙未四月日建於高山寺十無尽院道場授与仏子密護／畢願以此正縁生々世々共光顕如来正法竜華之初会同／証無生法此我取願也／大阿闍梨耶慧友護
1835年	天保6年	7月2日	61歳	[2]十無尽院蔵／ [illegible] 相承分／伝法印信／同口伝等／栂尾不共之口決也可秘々々[4]天保六年乙未七月二日使密護書写之也／沙門慧友護
1835年	天保6年	7月15日	61歳	越後国蒲原郡下條村林信清〈俗称勘解戈門〉奉修補此／大方広円覚経了義経上巻納于　十無尽院宝／庫願此以此勝縁脱六道輪回妄苦証一心清浄真楽／怨親共住解脱清浄法殿情非同遊六円覚妙荘／厳城者／歳在栂蒙協洽天保第六七月仏歓喜日／西山禅念沙門慧友護〈享年六十又一〉
1835年	天保6年	7月	61歳	歳在栂蒙協給天保／第六七月仏歓喜日／西山持念沙門慧友護〈享年六十又一〉
1835年	天保6年	8月13日	61歳	天保六年八月十三日慧友外典勘定目録　一紙
1835年	天保6年	9月8日	61歳	〈乙〉天保六年歳次乙未九月八日／以十無尽院古材造之／沙門慧友護
1835年	天保6年	11月6日	61歳	天保六年乙未霜月六日奉修補了／高山禅念沙門慧友護／享年六十又一歳
1835年	天保6年	11月26日	61歳	天保六年乙未十一月廿六日一校了以無類本難授他日得善／本可交〈云々〉
1835年	天保6年	未詳	61歳	
1836年	天保7年	3月15日	62歳	歳次丙申天保七年三月十五日／阿闍梨伝灯大法師慧友僧護〈六十又二歳〉
1836年	天保7年	4月20日	62歳	歳次丙申天保七年四月二十日依伝戒相承之説謹／記之　高山寺禅念沙門慧友護〈享年六十又二〉(以上本奥書)／布薩／ [illegible] 〈 [illegible] 〉
1836年	天保7年	5月3日	62歳	岡屋殿下御影〈正元元年五月四日／天保七年丙申五月三日／外銘陽明内府公御筆(慧友筆)
1836年	天保7年	6月16日	62歳	時炎暑如在甑中／天保七年歳次丙申六月十六日於于高山十無尽院以康／和四年十二月一日書写本遂校合了／大悲胎蔵生沙門慧友護〈六十又二歳〉／対校者善財院密護〈二十又七歳〉／武州勝呂大智寺沙門法舟仏芽〈五十又一歳〉
1836年	天保7年	7月1日	62歳	天保三年壬辰三月廿一日奉修補之／伏願以此能州石動山宝遠坊高照也／于時仏子高照、同年七月八日、死于京師客舎／春秋五十又四歳、人命無常、宝可哀〈云々〉／十無尽院沙門慧友護記之(朱書)「同六年乙未三月二日一見了／ [illegible] 此／本書誤不少他日可精詳矣／同七年〈丙申〉七月一校了為授与于証成大法師／伝法灌頂也」
1836年	天保7年	7月1日	62歳	天保七年〈歳次丙申〉七月一日授法印／仏芽了一宗究極可悲々／大沙門者梨沙門慧友護
1836年	天保7年	7月14日	62歳	天保丙申七月十四日於于十無尽院一校了〈梵文私加之〉／沙門慧友僧護〈六十又二〉
1836年	天保7年	7月19日	62歳	天保七年〈丙申〉七月十九日一校了／ [illegible]

典籍名	成立	典拠	備考	寺院	自称・呼称	分類
胎蔵法(印信)一通	天保6年写	高3-聖4-110函-190[1]	(奥書)慧友授与許可印信〈受者密護〉二通の内		大阿闍梨沙門慧友護	授与
准提仏母延三七歳法印信　一通	天保6年写	高3-聖4-110函-190[2]	(奥書)慧友授与許可印信〈受者密護〉二通の内	高山寺十無尽院道場	大阿闍梨耶慧友護	授与
明上人口伝等　一包	江戸末期写、慧友・密護筆	高4-聖4-148函-76[2][4]	[2]包紙一紙(表書)[4]妙拳土手明一通(朱書)			書写
大方広円覚了義経〈上下〉(宋版)二帖一帙	南宋版	高4-聖4-208函-8[1]	[1](奥書)		西山禅念沙門慧友護	修補
大仏頂如来念誦次第一通	天保6年写、慧友筆	高2-聖4-53函-635	(奥書)		西山持念沙門慧友護	書写
宋版斉民要術巻第八	南宋版	高1-重22[附1]	○折紙、紙背に二月五日今江多助真侍書状あり		慧友	附録
(第一四五函)	天保6年写、慧友筆	高4-聖4-145函	(函蓋裏墨書銘)		沙門慧友護	函書
大楽金剛不空真実三摩耶経般若波羅密多理趣品　一帖	室町時代写か	高2-聖4-37函-5	(端書)(表紙裏)		高山禅念沙門慧友護	修補
不動尊効能一冊	江戸末期写、慧友筆	高4-聖4-167函-9[1]	(奥書)(朱書)(慧友上人筆蹟等)の内			校合
胎蔵界并儀軌等要文(外題)一帖	仁安3年写、範杲筆	高1-聖1-109[1]	[1]包紙一紙○天保六年慧友識語あり			包紙
天長印信　一通	天保7年写、慧友筆	高3-聖4-110函-185[3-6-4]	(末尾)印信・目録等一括三五通の内		阿闍梨伝灯大法師慧友僧護	授与
高山寺恒例菩薩布薩略作法　一冊	江戸末期写	高4-聖4-133函-23	(本奥書)		高山禅念沙門慧友護	相伝
五月三日宗彦書状〈十無寺院宛〉一通	江戸末期	高2-聖4-48函-22	(端裏宛書の右)(朱書)	(十無尽院)		識語
受明灌頂作法次第〈胎蔵界〉一帖	鎌倉初期写	高2-聖4-68函-9	(表紙)(朱書)	十無尽院	大悲胎蔵生沙門慧友護	校合
伝法灌頂三昧戒作法〈草案可再治〉一巻	南北朝時代写	高2-聖4-66函-14	(奥書)	十無尽院	十無尽院沙門僧護・慧友僧護・ཐ ཙ ཡ ཏ ཏ ཀ	修補・校合
仏眼　二十一葉	江戸末期写	高4-聖4-148函-30[1]	包紙　一紙(表書)内側の末尾に「記事」識語あり		大沙門闍梨沙門慧友護	包紙
求聞持　一巻	延応4年、経舜筆	高1-聖1-148	(朱書)	十無尽院	沙門慧友僧護	朱書
求聞持次第〈御作〉一帖	延慶4年写	高3-聖4-76函-59	(奥書)(別筆)(朱書)		ཐ ཙ ཡ ཏ ཏ ཀ	校合

慧友僧護について

西暦	和暦	月日	年齢	記事
1836年	天保7年	7月20日	62歳	天保七年丙申七月／二十日心中発願／伏祈／本尊薩埵之知見／加持冥護而已／仏子慧友護／享年六十又二歳
1836年	天保7年	10月	62歳	天保七年〈歳次丙申〉十月為二三子抄出之／了／西山持念沙門慧友記
1837年	天保8年	1月23日	63歳	貞応三年〈甲午〉七月廿五日以顕証師自筆／之本写之了同自廿九日聞持始行之／金剛仏子永弁〈二十九歳〉／天保八年〈丁酉〉正月廿三日一校了持也／春雨頻降萌芽催／十無寺院沙門慧友護／享年六十又三歳
1837年	天保8年	2月8日	63歳	天保八年丁酉二月八日一校了／執毫師大法師密護／沙門慧友護〈享年六十又三歳〉
1837年	天保8年	2月28日	63歳	天保八年歳次丁酉二月念八日依于／栂尾上人之説為或三子抄出之願以／此功力証大空之秘蔵長養成就菩提／之心也沙門慧友護享年六十又／三歳可哀之
1837年	天保8年	2月28日	63歳	天保八年歳次丁酉二月念八日／依于　栂尾上人之説為二三／子抄出之了願以此功力／証大空之秘蔵長養成就菩／提之心也沙門慧友護享年／六十又三歳可哀之
1837年	天保8年	3月1日	63歳	天保八年〈歳次丁酉〉三月初一日／為二位大法印証成抄／書之了／高山禅念沙門慧友護／丁酉季春沙門慧友謹抄
1837年	天保8年	3月1日	63歳	天保八年〈丁酉〉三月一日校了／ཟ་ཐུ་ལ་ཤ་ཏ་ཏེ་ཏ
1837年	天保8年	3月1日	63歳	天保八年〈歳次丁酉〉三月初一日為二位／大法師証成抄書之了／高山寺禅念沙門慧友護〈草名〉
1837年	天保8年	3月1日	63歳	(奥書)「天保八年〈歳次丁酉〉三月初一日／為二位大法師証成抄／書之了／高山禅念沙門慧友護」(追筆)「丁酉季春沙門慧友謹抄」
1837年	天保8年	3月25日	63歳	天保八年〈歳次丁酉〉三月二十五日依于／栂尾上人御説為勤心行者／記之了持念沙門慧友護〈六十又三歳〉／于時天保十年〈歳次己亥〉三月二十六日於于／栂尾山三尊院書写之了／仏子慧尊
1837年	天保8年	3月27日	63歳	天保八年〈丁酉〉三月廿七日一校了／金剛仏子慧友護／〈上人御作〉／建久六年六月十一日於神護寺中門／脇房書了　校合了／同十二日奉伝受了／同日以右御本再交了／慧友〈六十又三歳〉
1837年	天保8年	5月25日	63歳	(巻中識語)天保八年〈歳次丁酉〉五月二十五日為授／稽徒抄書之了、持〈予〉聞持／修行之間也／沙門慧友護〈六十又三〉(奥書)同三十日一校了／ཟ་ཐུ་ལ་ཤ་ཏ་ཏེ་ཏ
1837年	天保8年	5月25日	63歳	天保八年〈歳次丁酉〉五月二十五日為授／諸徒抄書之了時〈予〉聞持／修行之間也／沙門慧友護〈六十又三〉(奥書)(朱書)「同三十日一校了ཟ་ཐུ་ལ་ཤ་ཏ་ཏེ་ཏ
1837年	天保8年	5月25日	63歳	天保八年〈歳次丁酉〉五月二十五日為授／諸徒抄書之了持〈予〉聞持／修行之間也　沙門慧友護〈六十又三〉／帰命大智海福徳虚空蔵一称一念者／成就自然智能満諸勝願獲得無／尽蔵
1837年	天保8年	9月12日	63歳	(前略)去文政十三年庚寅七月二日地動之砌破損〈云々〉今天保八年丁酉九月十二日／奉修補了伏願生々世々如教受持亦願依此功徳大円覚樹之梢開十無／尽院蔵之花沐出現正法之雨結二転円満之菓云爾／西山禅念沙門慧友護〈六十又三〉／右六巻経本為持経奉頂戴之　金剛仏子　密護
1839年	天保10年	3月8日	65歳	天保十かへりの／歳弥生の八日／栂尾山沙門慧友〈ぬかつきて申〉／掛川侍従殿／御ものに云々
1839年	天保10年	7月27日	65歳	(以上本奥書)時文化十一年甲戌霜月十九日於高山寺三尊院対仁和／寺少輔僧都宏練御房遂校合了生々世々同生一仏前／証得華厳普法同於一切衆生界満足普賢大菩薩心／〈云爾〉十無尽院沙門恵友僧護謹識　依為明年正月／開基明恵上人六百諱辰為報恩謝徳聊積写功以／奉施入于高山寺禅堂院畢／文政第十三庚寅十一日望於紫野大徳禅寺之寓居敬記之／仏子宏練〈時享年四十七〉/(朱書)「天保十年〈己亥〉七月廿七日一交了ཟ་ཐུ་ལ་ཤ་ཏ་ཏ〈六十又五〉
1839年	天保10年	8月26日	65歳	天保十年〈己亥〉八月二十六日修補□

典籍名	成立	典拠	備考	寺院	自称・呼称	分類
求聞持修行支度 一通	天保7年写、慧友筆	高3-聖4-117函-82	(奥書)		仏子慧友護	書写
求聞持真言句義〈形像附〉一冊	天保7年写、慧友筆	高3-聖4-76函-62	(奥書)		西山持念沙門慧友護	書写
求聞持法　一帖	貞応3年、永弁筆	高3-聖4-77函-30	(奥書)	十無尽院	十無尽院沙門慧友護	校合
求聞持法　求聞持次第〈御作〉一帖	貞応3年写	高3-聖4-76函-34	[求聞持法] (奥書)(朱書)		沙門慧友護	校合
本尊観　一通	天保8年写、慧友筆	高3-聖4-111函-125	(奥書)		沙門慧友護	抄出
本尊観・入法界観 一通	天保8年写、慧友筆	高4-聖4-157函-29[21]	(奥書)口伝等雑々　一括の内		沙門慧友護	書写
拝明星作法　一通	天保8年写、慧友筆	高2-聖4-53函-164	(奥書)		高山禅念沙門慧友護	書写
求聞持法　一帖	天保8年写、慧友筆	高3-聖4-76函-121-1	(奥書)		[illegible]	書写
拝明星天子作法 一帖	天保8年写、慧友筆	高3-聖4-76函-121-2	(巻中識語)		高山禅念沙門慧友護	書写
拝明星天子作法 一通	天保8年写、証成筆	高4-聖4-148函-79[2]	(奥書)(追筆)		高山禅念沙門慧友護	抄出
〈栂尾〉金剛界三摩地法　一冊	天保十年写、慧尊筆	高2-聖4-63函-16	(奥書)	(三尊院)	持念沙門慧友護	書写
求聞持法　求聞持次第〈御作〉一帖	貞応3年写	高3-聖4-76函-34	[求聞持次第〈御作〉] (奥書)(朱書)		金剛仏子慧友護・慧友	校合
蘇加持作法　一帖	天保八年写、慧友写	高3-聖4-88函-25	(巻中識語) (奥書)		沙門慧友護・[illegible]	授与
蘇加持作法　一帖	天保8年写、慧友筆	高3-聖4-111函-143	(巻中識語) (奥書)(朱書)		沙門慧友護・[illegible]	抄出・校合
題未詳　一通	天保8年写、慧友筆	高4-聖4-157函-29[22]	(奥書)口伝等雑々　一括の内		沙門慧友護	抄出
大方広仏華厳経 巻第五十二　一帖	江戸中期写	高4-聖4-155函-7	(奥書)		西山禅念沙門慧友護	修補
慧友書状　一括	天保11年写、慧友筆	高4-聖4-133函-40	(末尾)(〇文政十三年七月二日の地震に経蔵破損の由を記せり)		栂尾山沙門慧友	書写
随意別願文　一巻	文政12年写、宏練筆	高4-聖4-170函-23	(奥書)(朱書)		十無尽沙門恵友僧護・[illegible]	修補
高山寺縁起抄　一通	江戸末期写	高4-聖4-171函-26	(朱書)			修補

慧友僧護について

西暦	和暦	月日	年齢	記事
1839年	天保10年	9月28日	65歳	(表紙)文政五年壬午七月念一日修補之也／慧友護誌(奥書)(紙背)(朱書)天保十年〈己亥〉九月二十八日奉修補了／一校了／沙門慧友護〈六十又五〉／又以方便智院所蔵道喜之本一校了
1839年	天保10年	10月2日	65歳	天保十年〈己亥〉十月二日　一校了[illegible]
1840年	天保11年	3月2日	66歳	天保十一年〈庚子〉三月二日抄書之／沙門慧友〈六十又六〉
1840年	天保11年	8月16日	66歳	天保十一年〈庚子〉八月十六日奉修補了／此巻自首題至一相五十七字／根本上人大師之筆跡也　末子可秘／帳中／高山蘭若沙門慧友護〈六十又六〉
1841年	天保12年	4月29日	67歳	天保十二年〈丑辛〉四月廿九日
1841年	天保12年	6月30日	67歳	(表紙見返)天保十二年〈辛丑〉三月凝然法師恵之也／恵友護／修補施主京師和歌山治駆(奥書)(補紙)(朱書)天保十二年〈辛丑〉六月三十日於十無尽院一校了／高山禅念沙門慧友〈六十又七〉／此式文以解脱上人之撰文他日可勘之／凝念法師恵之与云々／修補施主京師和歌山治駆也
1841年	天保12年	9月5日	67歳	天保十二年〈辛丑〉九月五日一校了慧友護〈六十又七〉
1841年	天保12年	9月19日	67歳	天保十二年〈丑辛〉九月十九日奉修補了／沙門慧友護〈六十又七〉
1841年	天保12年	11月	67歳	天保十二年〈辛丑〉十一月奉修補之了／沙門慧友護
1841年	天保12年	11月	67歳	天保十二年〈辛丑〉十一月修補之了／沙門慧友護〈享年六十又七〉
1841年	天保12年	11月	67歳	勤抄五／肝要抄[illegible]／裏書定真上人之写也再治之本〈云々〉／天保十二年辛丑十一月奉修補之了／沙門慧友謹記之
1842年	天保13年	2月8日	68歳	天保十三年〈歳次壬寅〉二月八日奉書写校合了／沙門慧友護〈六十又八〉
1842年	天保13年	5月	68歳	天保十三年〈壬寅〉五月修補了／沙門慧友護
1842年	天保13年	5月	68歳	天保十三年〈壬寅〉五月修補了／沙門慧友護
1842年	天保13年	7月28日	68歳	(前略)天保十三年〈壬寅〉七月廿八日／金剛仏子密護／此折紙一帖授与于行検畢／阿闍梨慧友護
1842年	天保13年	9月7日	68歳	天保十三年九月七日奉修補畢／沙門慧友護〈享年六十又八〉
1842年	天保13年	9月7日	68歳	空達上人御筆／五秘密図〈天保十三年九月七日修補〉／東第三箱
1842年	天保13年	9月9日	68歳	(表紙見返)〈木上〉金剛界抄一巻〈栂尾御筆〉／右根本上人御作歳次己亥五月奉修補了／施財者従五位下越中守蜷川親常〈本姓也〉宮道／沙門恵友護記之(奥書)(別筆後筆)五秘密口決　一巻／天保十三年九月九日奉修補了／沙門慧友〈六十又八〉
1842年	天保13年	9月9日	68歳	五秘密禅堂院口説一巻／天保十三年九月九日奉修補了／沙門慧友〈六十又八〉
1843年	天保14年	3月14日	69歳	仁和蔵中／貞観寺相伝八大祖師銘「貞観／寺印」(印記模写)／天保十四年〈癸卯〉／三月十四日写之
1843年	天保14年	5月30日	69歳	十無尽院相伝四巻抄奥批／永仁五年〈丁酉〉五月十五日以十無尽院御本交合了／斎親〈廿九歳〉／同年六月二日首尾六ヶ日恵師奉伝受了／不審所等別注之／四巻抄勧修寺理明房興然記／天保十四年〈癸卯〉五月三十日交合了／慧友護〈六十九歳〉
1844年	天保15年	3月19日	70歳	天保十五年五月仲旬奉／師命奉書写了／十無尽院密護／同十五年〈甲辰〉三月十九日為二三子／一校了／[illegible]／嘉永二年〈乙酉〉孟春初五件本鼠損／繕写了／吉祥雲院／[illegible]

典籍名	成立	典拠	備考	寺院	自称・呼称	分類
一切如来心秘密全身舎利宝篋印陀羅尼経一巻	鎌倉中期写	高2-聖4-37函-3	(表紙)(奥書)(紙背)(朱書)	(方便智院)	慧友護・沙門慧友護	校合
持経講式　一冊	文化2年写、西村維祺筆	高3-聖4-113函-70	(奥書)(朱書)		[illegible]	校合
(遺教経明恵奥書抜書)一通	天保11年写、慧友筆	高4-聖4-167函-8[36]	(奥書)(朱書)(慧友上人筆蹟等)の内		沙門慧友	抄出
華厳十重唯識義一巻	鎌倉中期写、喜海筆か	高1-聖1-274	(奥書)		高山蘭若沙門慧友護	修補
(近衛殿寄進灯籠之事等)一通	天保12年写、慧友筆	高4-聖4-167函-9[18]	(奥書)(朱書)(慧友上人筆跡等)の内			書写
毘沙門講式　一巻	大永3年写、盛与筆	高3-聖4-113函-17	(表紙見返)(補紙)(朱書)	十無尽院	慧友護・高山禅念沙門慧友	校合・修補
高山寺新八幡社之事一通	天保12年写	高4-聖4-148函-36	(奥紙背)(朱書)		慧友護	識語
大師御影銘　一通	鎌倉中期写	高4-聖4-174函-10[附]	包紙(表書)		沙門慧友護	修補
孔雀経〈類聚最秘〉(外題)一巻	鎌倉中期写、仁真筆か	高1-聖2-210	(原表紙見返)		沙門慧友護	修補
可伝受法日記　一巻	享徳2年写、良祐筆	高3-聖4-112函-61	(奥書)(別筆)		沙門慧友	修補
肝要抄[illegible](孔雀)(外題)一巻	建保5年写、定真筆	高1-聖1-120	(表紙見返)		沙門慧友	識語
当寺新八幡宮事一通	天保13年写、慧友筆	高4-聖4-174函-17	(奥書)(朱書)			書写
十六羅漢講式勘注一冊	江戸初期写	高2-聖4-48函-9	(奥書)(別筆)		沙門慧友護	修補
涅槃講式勘注　一冊	江戸初期写	高2-聖4-48函-12	(奥書)(別筆)		沙門慧友護	修補
入堂場作法　一帖	天保13年写、開暁写	高3-聖4-88函-21	(本奥書)		阿闍梨慧友護	授与
五秘密尊念誦次第一帖	延応2年写、定真筆	高1-聖1-198	(継紙識語)(別筆)		沙門慧友護	識語
五秘密印図　一包(十五枚)	鎌倉中期写、仁真筆	高3-聖4-111函-15	(包紙表書)			修補
金剛界抄(外題)一巻	鎌倉初期写、高弁筆か	高1-聖2-87	(表紙見返)(奥書)(別筆後筆)		沙門慧友・沙門慧友護	奥書
五秘密〈禅堂院口〉(端裏外題)	仁治2年写	高1-聖2-135	(補紙)(後筆)		沙門慧友	修補
貞観寺相伝八大祖師録　一冊	天応14年写、慧友筆	高3-聖4-112函-53	(巻中識語)(朱書)			書写
覚書	江戸末期写、慧友筆	高4-聖4-148函-29[1]	(表書)上人真筆一通八葉の内		慧友護	書写
金剛頂瑜伽修習毘盧遮那三摩地法　一帖	江戸末期写	高2-聖4-64函-33	(奥書)		[illegible]	校合

西暦	和暦	月日	年齢	記事
1844年	天保15年	5月1日	70歳	此金剛界三摩地法依于／先師本願明慧上人之次第／委附印契真言等以便／初心／持誦人窮其本源増益信／行矣／天保十五年甲辰五月一日於高／山方便智院閑室記之了／沙門慧友護〈満七十也〉
1844年	天保15年	12月4日	70歳	「天保十五年甲辰十二月四日於高山十無尽院一校了」「禅念沙門慧友護〈七十歳〉」
1845年	弘化2年	5月	70歳	此金剛念誦法〈名三摩地法也〉依／因于栂尾上人之行軌委附／印契真言等以便初心行者／修行者窮其本源増益信／行矣歳次甲辰五月於高山寺方便智院精室記之了／沙門慧友護〈満七十歳〉
1845年	弘化2年	3月19日	70歳	弘化二年三月十九日伝灯大法師〈密護証成〉敬白（以上本奥書）
1845年	弘化2年	4月30日	71歳	（以上本奥書）歳次乙巳弘化二年四月三十日〈甲申〉於十無尽院／奉書写之了／高山禅念沙門慧友護〈七十又一〉
1845年	弘化2年	8月18日	71歳	石山印信三包〈初二三〉／弘化二年〈乙己〉八月十八日於十無尽／院道場奉伝受了／大阿闍梨一品親王済仁〈御年五十歳〉／受者方便智院慧友護〈七十一歳〉／予年来懇願之処関東／御発輿以前為御法談忝／来臨御印信等御自筆／賜之畢生々世々法契／不過之未曾有勝事也
1845年	弘化2年	9月	71歳	（表紙見返）守護国界陀羅尼経一部十巻／高山真第一箱中川寺実範闍梨／相伝之本也　弘化二年九月修／補之施主洛下大原口御車町住／人若山氏古遁女為資亡夫理山／道趣出離生死速証菩提冥福／也歳次丙午弘化三年二月記之／沙門慧友護〈七十又二〉（奥書）（別筆）弘化三年〈丙午〉四月廿五日中川寺重海書写本／於十無尽院共密護一校了件本批云／保延三年八月二日於中川書写了執筆重海〈文〉／高山寺沙門慧友護〈七十又二歳〉
1845年	弘化2年	未詳	71歳	
1845年	弘化2年	未詳	71歳	
1846年	弘化3年	2月27日	72歳	弘化三年〈丙午〉二月廿七日校了／春雨頻降草木催萌／今日証成　空眼行向于大内／皆明寺室為習梵歌／詠也〈云々〉　慧友記之／広西　高山寺／地蔵院／弘安七年〈甲申〉五月八日書写了／校了／弁喜／丸宝別秘／今日日岸時正結記之
1846年	弘化3年	3月2日	72歳	歳次丙午弘化三年三月二日為于／能登守宮道朝臣親常君一校了／願以此勝業生々世々修〈白光神〉慈心三昧／証法性普遍大慈氏身云爾／高山寺沙門慧友謹記
1846年	弘化3年	3月20日	72歳	于寛文六年七月三日以石水院御本／写之了　華厳宗沙門　永弁／歳次丙午弘化三年三月廿日以／浄弁上人之御本書写了　応于／妙有闍梨之請願当来世共証悟／以仏衆生三無差別甚深唯識云爾／高山練若沙門慧友護〈七十又二〉
1846年	弘化3年	4月25日	72歳	弘化三年〈丙午〉四月廿五日於十無尽院以中川寺重海書／写本奉校合了件本批云／保延三年八月六日移点了　弁円／同年始自十一月十七日至十九日三ヶ日之間／奉伝受了　玄証／高山沙門慧友護
1846年	弘化3年	4月26日	72歳	弘化三年四月廿六日以中川寺沙門入阿本〈執筆重海也〉一校／（中略）（以下補紙に記す）高山沙門慧友護／対校仏子　密護
1846年	弘化3年	4月26日	72歳	弘化三年〈丙午〉四月廿六日以入阿之本校了本批云／同年月廿二日一ヶ日奉伝受了　玄証／高山沙門慧友護

典籍名	成立	典拠	備考	寺院	自称・呼称	分類
金剛頂瑜伽修習毘盧遮那三摩地法　一帖	天保15年写、慧友筆	高2-聖4-64函-18	(奥書)	方便智院	沙門慧友護	書写
表白　一通	天保15年写、慧友筆	高4-聖4-133函-41	○表白の後に神分を続けり、又紙背に書籍目録あり、其の奥に「記事」とあり	高山寺十無尽院	禅念沙門慧友護	校合
金剛頂瑜伽修習毘盧遮那三摩地法	弘化2年写、慧友筆	高2-聖4-64函-17[1]	(奥書)	方便智院	沙門慧友護	書写
(諷誦文)一通	江戸末期写、慧友	高4-聖4-167函-8[11]	(奥書)(慧友上人筆蹟等)の内			書写
座右記	江戸末期写、慧友筆	高3-聖4-117函-7[1]	(巻中識語)、同[2]江戸末期写慧友筆	十無尽院	高山持念沙門慧友護	書写
済仁授与石流印信〈受者慧友〉六通	弘化2年写、慧友筆	高3-聖4-110函-191[1][2-3][4-2][4-3]	包紙(表書)他、同意種(末尾)多数あり	方便智院	方便智院慧友護	伝受
守護国界主陀羅尼経巻第一	鎌倉初期写	高2-聖4-36函-2[1]	(奥書)(別筆)	十無尽院	高山寺沙門慧友護・沙門慧友護	修補
(弘化二年高山寺殿下五百五十年御忌事)一通	江戸末期写、慧友筆	高4-聖4-167函-8[46]	(慧友上人筆蹟等)の内			書写
(高山寺禅定殿下五百五十年忌華厳三昧衆僧交名)一通	弘化2年写	高4-聖4-167函-9[28]	(慧友上人筆蹟等)の内			書写
丸宝別秘　一帖	弘安7年写、弁喜筆	高3-聖4-90函-50[1]	包紙(裏書)		慧友	包紙
一切智光明仙慈心因縁不食肉経　一冊	江戸末期写	高2-聖4-34函-55	(奥書)(朱書)(但し訓点は墨点)		高山寺沙門慧友	校合
華厳宗種性義抄一冊	貞応3年写、琳弁筆	高4-聖4-123函-41	○別筆一紙あり、奥書の写しあり、慧友筆		高山寺練若沙門慧友護	識語
守護国界主陀羅尼経巻第二	鎌倉初期写	高2-聖4-36函-2[2]	(奥書)		高山沙門慧友護	校合
守護国界主陀羅尼経巻第三	鎌倉初期写	高2-聖4-36函-2[3]	(奥書)		高山沙門慧友護	校合
守護国界主陀羅尼経巻第四	鎌倉初期写	高2-聖4-36函-2[4]	(奥書)		高山沙門慧友護	校合

西暦	和暦	月日	年齢	記事
1846年	弘化3年	4月27日	72歳	弘化三年〈丙午〉四月廿七日以入阿上人之本一校了件本(中略)此経本校合之砌自／一品太王奉書頃日／女院〈御年六十八歳〉貴体不穏累日不予〈云々〉奉為／御悩平癒宝寿長久抽丹誠可奉護念之／旨也仍於石水院殿自今夕起首一七ヶ／日之間奉修随求大護加持／阿闍梨慧友護〈年七十二〉／女院御名／欣子〈御年六十八歳〉／後桃園帝皇女御母盛花門院〈准三后内前公御女〉
1846年	弘化3年	12月 4 日	72歳	(前略)沙門慧友護敬律識／(中略)弘化三年丙午十二月四日病中記之示二三子了／沙門慧友護七十二
1846年	弘化3年	12月16日	72歳	(表紙見返)弘化二年歳次己巳冬奉修補了／沙門慧友護〈七十又一〉(奥書)(朱書)弘化三年〈丙午〉十二月十六日一校了／弘化二年冬奉修補了／
1847年	弘化4年	3 月	73歳	弘化四年丁未三月代于智鏡／草之了　慧友〈七十又三歳〉
1847年	弘化4年	3 月28日	73歳	弘化四年〈丁未〉三月廿八日／慧友
1847年	弘化4年	5 月17日	73歳	金剛界念誦私記〈神楽岡長慶公〉一巻恭以／玄密房上人〈仁真〉御本、奉書写之了／起首弘化三年〈丙午〉十二月六日、至同年十二月廿八日／写功畢伏願以此功徳共一切衆生界／同入金剛界、証三菩提果〈云々〉／金剛仏子恭孝〈道猷生年二十歳也〉／時天気凜々氷亀毛不堪執毫／弘化四年〈丁未〉五月十七日至同廿四日一校了／為授与于二位大法師証成／
1848年	弘化5年	1 月24日	74歳	歳次戊申弘化五年正月二十四日集録／累代阿闍梨之説以授之二三子了／高山禅念沙門般若蜜咀羅羅又〈満七十四〉
1848年	弘化5年	1 月25日	74歳	弘化戊申正月廿五日恭一校了／
1848年	弘化5年	1 月25日	74歳	〈天保癸卯春正月〉尼連禅河院御室〈済仁〉御書／弘化四年丁未十二月廿日蒙御御年五十又一歳／奉為増進仏果毎月可奉読誦〈云々〉／戊申正月廿五日謹校了／沙門慧友護〈七十又四〉
1848年	弘化5年	2 月15日	74歳	弘化五年〈戊申〉二月十五日／慧友護満七十四所合有之
1848年	弘化5年	2 月19日	74歳	弘化五年戊申二月十九日奉迎于／尼連禅河院御室四十九之御忌景／奉為資上生都卒成等正覚奉修補／此三本矣　高山寺方便智院沙門慧友護／〈七十又四〉
1848年	嘉永1年	3 月14日	74歳	従栂尾山大阿闍梨僧護／大和上受伝法院一流砌／以大阿御自筆之本写／畢／于時嘉永元年〈戊申〉／三月十四日　隆栄／以上伝法院流正伝之／具書也／外広沢通用之分不記之／嘉永元年〈歳次戊申〉三月／伝流伝授之砌記之了／沙門慧友護〈七十又四〉
1848年	嘉永1年	4 月 1 日	74歳	(前略)明和四年四月廿日授法印謙順法務前大僧正宥証／授沙門僧護法印謙順／嘉永元年〈戊申〉四月二日授法印隆栄阿闍梨僧護／(後略)
1848年	嘉永1年	4 月 2 日	74歳	(前略)寛永元年〈甲子〉六月廿七日授与兼性畢　菊渕判／嘉永元年〈戊申〉四月二日授与隆栄法印畢／阿闍梨僧護／嘉永二年〈己酉〉八月廿日授与宥性畢／阿闍梨隆栄(後略)
1848年	嘉永1年	4 月 4 日	74歳	(前略)寛文三年〈癸卯〉四月廿五日授与琳弁大法師畢／阿闍梨(花押)／嘉永元年〈戊申〉四月四日授隆栄法印畢／阿闍梨僧護／嘉永二年〈乙酉〉八月授阿闍梨宥性畢／隆栄僧正
1848年	嘉永1年	4 月 6 日	74歳	(前略)明和四年四月十九日奉伝受真乗院法務前大僧正御房了／法印権大僧都謙順／奉伝受大阿闍梨謙順大和上御房畢／沙門僧護／嘉永元年四月六日奉伝受栂尾方便智院僧護大和上御房了／隆栄(後略)
1848年	嘉永1年	4 月 5 日	74歳	寛文三年四月廿七日授琳弁了／顕証／嘉永元年四月五日授隆栄／僧護／嘉永二年八月廿二日授宥性了／隆栄(後略)
1848年	嘉永1年	4 月 5 日	74歳	(前略)嘉永元年四月五日於智山梅舎僧護御房／被授之了／同年七月十三日以御本写了／隆栄(後略)

典籍名	成立	典拠	備考	寺院	自称・呼称	分類
守護国界主陀羅尼経巻第五	鎌倉初期写	高2-聖4-36函-2[5]	(奥書)		阿闍梨慧友護	校合
班辞援毫　一冊	江戸末期写、慧友筆	高3-聖4-117函-1	(巻中識語)		沙門慧友護	書写
善財善知識章　一巻	鎌倉初期写、高弁筆か	高1-聖1-283	(表紙見返)(奥書)		沙門慧友・ 𑖨𑖿𑖤𑖽𑖟𑖨𑖿𑖢	修補
〈漫草〉表白集　一冊	天保弘化頃写、慧友筆	高3-聖4-87函-107	(巻中識語)(朱書)		慧友	書写
正受印可作法　一通	弘化4年写、慧友筆	高4-聖4-173函-9[2]	(奥書)(朱書)雑々書一通の内		慧友	書写
金剛界念誦次第一冊	江戸末期写、恭孝筆	高2-聖4-64函-35	(奥書)		𑖨𑖿𑖤𑖽𑖟𑖨𑖿𑖢𑖟𑖿𑖢	校合
悉曇羅素観　一冊	弘化五年写、慧友筆	高3-聖4-117函-4	(巻中識語)		高山禅念沙門般若蜜咀羅羅叉	
華厳十重唯識義一巻	天保14年写	高3-聖4-113函-18-1・18-2	(奥書)(朱書)		𑖨𑖿𑖤𑖽𑖟	校合
華厳十重唯識義一巻	天保14年写	高3-聖4-113函-18-4	(奥書)(墨書別筆)		沙門慧友護	校合
(慧友日記等雑記類)一通	江戸末期写、慧友筆	高4-聖4-167函-8[5]	(文中識語)(慧友上人筆蹟)の内		慧友護	書写
弥勒講式　一巻	鎌倉時代写	高1-聖1-204	(表紙見返)	方便智院	沙門慧友護	識語
(伝法院流伝授目録)一冊	嘉永1年写、隆栄写	高3-聖4-91函-17[3]	(奥書)伝授記〈外〉の内		大阿闍梨僧護・沙門慧友護	伝授
釈論大事　一通	江戸末期写	高3-聖4-110函-160[2]	(本奥書)		沙門僧護・阿闍梨僧護	相承
秘密伝法灌頂秘印一通	江戸末期写	高3-聖4-110函-171[2]	(本奥書)中院大事伝受記等五通の内		阿闍梨僧護	相承
即身義大事　高野山中院明算流　一通	江戸末期写	高3-聖4-110函-161[2]	(本奥書)即身義大事二通の内		阿闍梨僧護	相承
三部経大事　一通	江戸末期写	高3-聖4-110函-162[2]	(本奥書)	方便智院	沙門僧護・方便智院僧護大和上	相承
求聞持秘印〈中観上人相伝〉一通	江戸末期写	高3-聖4-110函-170[4-2]	(末尾)伝法院流五重等五通の内		僧護	相承
求聞持大事　一通	明治時代写	高3-聖4-110函-170[4-3]	(末尾)伝法院流五重等五通の内	智山梅舎	僧護御房	相承

慧友僧護について

西暦	和暦	月日	年齢	記事
1848年	嘉永1年	5月2日	74歳	右随大阿闍梨僧護大和上奉／受以御本写之畢／于時嘉永元年戊申五月二日／金剛　隆栄〈後略〉
1848年	嘉永1年	未詳	74歳	歳次戊申嘉永元年之春又／夏伝法能事畢阿闍梨沙門慧友僧護享年七十又四歳／吁哉老矣力披伝法吐々／呵々
1849年	嘉永2年	1月5日	75歳	天保十五年五月仲旬奉師命／書写之了　十無尽院沙門密護／同十五年甲辰三月十九日為二三王子／一校了　ཟླ་ཐོག་ཟླ་ཤ／嘉永二年〈己酉〉孟春初五件鼠損／繕写了　吉祥雲院／ཟླ་བ་དགུ／ཁ་ཅན་ལ
1849年	嘉永2年	2月13日	75歳	嘉永二年二月十三日校了／ཟླ་ཐོག
1849年	嘉永2年	2月25日	75歳	嘉永二年〈己酉〉二月十五日夜奉交之／了／沙門慧友〈七十又五〉
1849年	嘉永2年	3月7日	75歳	本紙虫損書写〈云々〉／嘉永二年〈己酉〉三月七日慧友〈七十五〉
1849年	嘉永2年	3月25日	75歳	嘉永二年三月廿五日／方便智院苾蒭／僧護
1849年	嘉永2年	3月 ~5月	75歳	慧友筆の雑記文書を綴じたるものなり
1849年	嘉永2年	4月9日	75歳	嘉永二年〈歳次己酉〉四月九日〈尾宿火曜〉甘露日／伝授阿闍梨沙門慧友護
1849年	嘉永2年	4月23日	75歳	天慶布字〈亦云石山布字也〉被入室更問／嘉永二年己酉四月廿三日於六波羅密寺丈室為授諸子抄出之了／慧友金剛七十五歳
1849年	嘉永2年	6月13日	75歳	嘉永二年六月十三日一校了炎暑如在／甑中雖然山中無人間苦熱〈云々〉／沙門慧友金剛〈七十五歳〉
1849年	嘉永2年	7月4日	75歳	高山寺法鼓台箱中真第二箱現／存未当有珍書也於丹波家尤可／貴重尊敬也／沙門慧友金剛〈七十又五〉嘉永二年〈己酉〉七月四日□入了
1849年	嘉永2年	未詳	75歳	天仁二年覚恵書写之本／自天仁二年己丑至嘉永二年己酉凡／七百四十一也／右法花陀羅尼校正之砌記之／沙門慧友金剛〈七十又五〉／〈己酉〉自五月廿四日至四月廿八日大雨流澍不止
1850年	嘉永3年	2月5日	76歳	(以上本奥書)嘉永三年〈庚戌〉二月五日未尅一校畢／沙門慧友〈七十又六歳〉
1850年	嘉永3年	2月5日	76歳	(以上本奥書)嘉永三年〈庚戌〉二月五日一校了／沙門慧友護(朱書)「同七年甲寅二月朱点了　沙門密護」
1850年	嘉永3年	2月5日	76歳	(以上本奥書)此四座講式依恵友阿闍梨教需以先師宏練僧都／手書之本令遂写功奉教主仏前了願愚此良因／永不失密法値遇之縁現世利自他来際必開覚路矣／実嘉永元年戊申八月　仁和沙門照道識之(別筆)「嘉永三年〈庚戌〉二月五日〈戊辰〉以栂尾御本謹校了／沙門慧友護〈七十又六〉」
1850年	嘉永3年	2月5日	76歳	(以上本奥書)嘉永三年〈庚戌〉二月五日〈戊辰〉以栂尾御本与二三子／一校畢　沙門慧友金剛〈七十又六歳〉／列席末者密語証成也
1850年	嘉永3年	2月27日	76歳	嘉永三年〈庚戌〉二月廿七日抄出示諸徒／了
1850年	嘉永3年	3月1日	76歳	嘉永三年〈庚戌〉三月初一日授与于諸徒／之砌一校了　沙門慧友金剛〈七十又六歳〉
1850年	嘉永3年	5月2日	76歳	歳次庚戌嘉永三年五月二日一校了／高山沙門慧友僧護記〈享年七十又六歳〉
1850年	嘉永3年	6月13日	76歳	嘉永三年六月十三日一交了／ཟླ་ཐོག་ཟླ〈ཅ〉
1850年	嘉永3年	9月8日	76歳	嘉永三年〈歳次庚戌〉九月八日勘定之于時誦持／却温黄神呪経之砌也沙門慧友護〈七十又六〉

典籍名	成立	典拠	備考	寺院	自称・呼称	分類
准提念誦次第　三通	江戸末期写	高3-聖4-110函-165[2][3][4]	(奥書)同意種多数あり		大阿闍梨僧護大和上	相承
保寿院流伝授目録一帖	嘉永1年写、証成手沢	高3-聖4-93函-9	(奥書)		大阿闍梨沙門慧友僧護	伝授
金剛頂瑜伽修習毘盧遮那三摩地法　一冊	嘉永2年写、慧友筆	高3-聖4-75函-21[1]	(奥書)	(吉祥雲院)	ས ᠵᠣᠩ ᠬᠠᠩ ᠳᠠᠨ	校合
薬師私次第　一帖	建久6年写、定真筆	高3-聖4-75函-50	(奥書)(朱書)		ས ᠵᠣᠩ ᠬᠠ	校合
諸徳三礼　一通	嘉永2年写、慧友筆	高3-聖4-111函-275	(奥書)(朱書)		沙門慧友	校合
御人々名事　一通	嘉永2年写、慧友筆	高4-聖4-155函-41	(奥書)		慧友	書写
(伝受類集抄標証)一通	嘉永2年写、慧友筆	高4-聖4-167函-9[26]	(奥書)(慧友上人筆蹟等)の内	方便智院	方便智院苾蒭僧護	書写
勿散票飄聚　一冊他	江戸末期写、慧友筆	高3-聖4-114函-26・30・31・32・33・36・40・41・42・43・45				書写
慧友授与可詔書〈受者証成〉一通	嘉永2年写、慧友筆	高3-聖4-110函-185[3-6-2][3-6-3][3-6-5]	(末尾)印信・目録等一括　三五通の内		伝授阿闍梨沙門慧友護	授与
(天慶布字)一通	嘉永2年写、慧友筆	高3-聖4-110函-185[3-6-6]	(末尾)(朱書)印信・目録等一括　三五通の内	六波羅密寺	慧友金剛	抄出
(法華経事)一通	嘉永2年写、慧友筆	高4-聖4-167函-8[41]	(奥書)(慧友上人筆蹟等)の内		沙門慧友金剛	校合
(大集虚空蔵菩薩所問経奥書抜書)二通	嘉永2年写、慧友筆	高4-聖4-167函-8[1]	(奥書)(慧友上人筆蹟等)の内		沙門慧友金剛	書写
成就妙法蓮華経王瑜伽観智儀軌　一帖	天仁2年写、覚恵写	高1-聖2-50[附1]	(包紙)		沙門慧友金剛	包紙
如来遺跡講式　一巻	江戸末期写	高3-聖4-113函-2	(奥書)		沙門慧友	校合
涅槃講式　一巻	江戸末期写	高3-聖4-113函-4	(奥書)		沙門慧友僧護	校合
舎利講式　一巻	嘉永元年写	高3-聖4-113函-5	(奥書)(朱書)		沙門慧友護	校合
十六羅漢講式　一巻	江戸末期写	高3-聖4-113函-15	(奥書)		沙門慧友金剛	校合
(阿闍梨・弟子徳抄)一冊	嘉永3年写、慧友筆	高3-聖4-111函-75	(奥書)			抄出
(伝授目録)一巻	鎌倉中期写、仁真筆	高1-聖2-208	(朱書)		沙門慧友金剛	校合
袈沙図　一冊	天保11年写、宝静筆	高3-聖4-101函-11	(第七紙)(奥書)(朱書)		高山沙門慧友僧護	校合
(法則)一葉	嘉永3年写、慧友筆	高4-聖4-197函-86	(奥書)(朱書)		ས ᠵᠣᠩ ᠬᠠ	校合
(七母天之事等)一通	江戸末期写、慧友筆	高4-聖4-167函-8[40]	(文中識語)(慧友上人筆蹟等)の内		沙門慧友護	書写

慧友僧護について

西暦	和暦	月日	年齢	記事
1851年	嘉永4年	3月20日	77歳	嘉永四年〈歳次辛亥〉三月二十日／伝戒和上位慧友金剛沙門僧護／於／日出先照高山之寺授戒得度／故井上栄久妻若山氏古迺女／享年五十七歳
1851年	嘉永4年	6月2日	77歳	嘉永四年〈辛亥〉六月二日濡雨於于十無寺院共密護対校了／夫弘化三年〈丙午〉四月廿一日奉　故御室尼連禅河院太王之御／誂校第五巻竟歳月荏苒至今年第六巻校合之校本法／鼓台第一箱沙門入阿之本〈執筆重海也〉共密護一校了／慧友時七十七歳也／交本奥批云／（以下略）
1851年	嘉永4年	6月4日	77歳	嘉永四年〈辛亥〉六月四日五日共密護一校了／沙門慧友護
1851年	嘉永4年	6月8日	77歳	嘉永四年〈辛亥〉六月八日大雨一校了（中略）亦以東寺講堂之本対校〈云々〉／沙門慧友護〈七十七〉
1851年	嘉永4年	6月12日	77歳	嘉永四年〈辛亥〉六月十二日以入阿之御本一校了（中略）沙門慧友護〈七十七才〉／同　密護〈四十二才〉
1851年	嘉永4年	6月13日	77歳	（前略）去弘化三年〈丙午〉四月廿三日奉于／尼連禅河院御室〈御名済仁〉之命校之自第一巻至第五巻花開葉／落経六ヶ年嘉永四年〈辛亥〉六月二日起首至同月十三日全部十巻／校合之畢荏苒之至可恥〈云々〉／慧友金剛沙門僧護〈七十七歳〉同業対校者　密護〈四十二才〉（中略）尼連禅河院御室沙門済仁弘化四年〈丁未〉十二月二十日薨／御年五十一歳嗚呼可悲可恐（中略）（朱書）「法名了法如幻五十七歳（以上「若山氏女古迺…」の右傍に記せり）／古迺女嘉永四年〈辛亥〉三月二十日〈申時上分〉得度授戒／于高山寺尼連禅河院御室」
1851年	嘉永4年	6月13日	77歳	[1]（奥書）歳次丙午弘化三年二月記之／沙門慧友護〈七十又二〉[4]（奥書）此経一部十巻弘化二年〈乙巳〉秋／奉修補了[5]（末尾）右以御本校合了〈亦以東寺講堂之本対校之〉／去弘化三年〈丙午〉「四月廿一日」依于／尼連禅河院御室之令命自第一巻／至第五巻校合之了歳月荏苒／経暦六ヶ年今嘉永四年辛亥／六月二日至同十三日自第六巻至／第十巻校合了　荏苒之至／可恥々々／慧友金剛沙門僧護〈七十七〉／同業挍者密護〈四十二〉[6]（紙背）嘉永四年六月十二日以入阿之本一校了／件本批云同年月始自廿七至晦日三ヶ日／奉伝受了　玄証
1851年	嘉永4年	未詳	77歳	
1852年	嘉永5年	未詳	78歳	歳次壬子嘉永五年「□□」〈結十六日〉／高山禅念沙門慧友護畔睇告〉
1853年	嘉永6年	7月8日	79歳	「菩提心論」を弟子たちに講ず
1853年	嘉永6年	7月10日	79歳	遷化
1853年	嘉永6年	10月21日	寂後	

〈キーワード〉高山寺　智積院　慧友　僧護　慈雲　謙順

典籍名	成立	典拠	備考	寺院	自称・呼称	分類
授戒名　一通	嘉永4年写	高2-聖4-53函-624	(末尾)		伝戒和上位慧友 金剛沙門僧護	書写
守護国界主陀羅尼経巻第六	鎌倉初期写	高2-聖4-36函-2[6]	(奥書)		沙門慧友護	校合
守護国界主陀羅尼経巻第七	鎌倉初期写	高2-聖4-36函-2[7]	(奥書)		沙門慧友護	校合
守護国界主陀羅尼経巻第八	鎌倉初期写	高2-聖4-36函-2[8]	(補紙奥書)		沙門慧友護	校合
守護国界主陀羅尼経巻第九	鎌倉初期写	高2-聖4-36函-2[9]	(補紙奥書)		沙門慧友護	校合
守護国界主陀羅尼経巻第十	鎌倉初期写	高2-聖4-36函-2[10]	(奥書)(別筆)		慧友金剛沙門	校合
守護国界主陀羅尼経等修補校合録　六通	江戸末期写、慧友筆	高4-聖4-133函-43 [1]～[6]	[1][4](奥書) [5](末尾) [6](紙背)		沙門慧友・ 慧友金剛沙門僧護	書写
(古包紙残欠)一紙	嘉永4年写、慧友筆	高3-聖4-113函-98				書写
(無題)一括	嘉永5年写	高4-聖4-133函-44	(奥書)		高山禅念沙門慧友護	書写
		長谷宝秀[1926]に依る		高山寺		
		長谷宝秀[1926]に依る		高山寺		
		墓碑銘記、 築島裕[1987]に依る		高山寺		